2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

評価項目（各2点）
報告様式：適切な内容の個別事業報告書が提出されている
証憑書類：申請通りの使途に利用されていることを裏付ける証憑書類が提出されている
表　　記：共通目的事業の個別事業(自主・委託・助成)であることが適切に表示されている
達成状況：申請通りの内容で事業が実施されている
特記事項：上記1～4項目に加えて評価点があった場合に記載

事業評価結果
評価項目の合計点数が10点：A
評価項目の合計点数が 8点：B
評価項目の合計点数が 8点未満：C

【自主事業】

管理No.	事業名	実施者名	決定額（円）	確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	自主表記	達成状況	特記事項
2024-1001	著作権情報誌「さあとらす」発行事業	一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）	65,000,000	61,036,356	本事業は、初中等の教員向けの著作権に関する情報誌を作成し、学校に配布することにより、教員に著作権に親しんでもらうことを主な目的とする。 また、SARTRASと現場の先生との間に直接的なネットワークを構築することにより、SARTRASの事業の遂行に有益な学校現場の情報を収集することも本事業の重要な目的である。	2024年度内に寄せられた感想および追加送付希望の詳細は添付資料のとおりである。多数の教育機関から冊子追加送付の希望が寄せられており、合計1,210部を送付した。送付希望に応じ、第1号は増刷を行った。他校の教職員から本誌のことを聞いて送付希望に至ったケースや、同市内の司書に本誌の内容を知ってもらうために配布をしたいといった連絡もあり、教育機関同士でも本誌を広めていただけている。大学等の初中等教育機関以外からも送付希望が寄せられており、本事業の初期の目的は概ね達成したと考えられる。 また、第5号では、これまでに教育機関から寄せられた感想を初めて掲載するにあたり、教育機関と直接コミュニケーションをとる中で、著作権に対する現場の意識や学校内での著作権担当教員の設定状況を教示していただける教育機関もあった。今後は、さらに一歩進めて、SARTRASと教育機関相互の意見交換の場を目指し、一層の充実を図る予定である。	B	○	○	○	○	
2024-1002	教師、生徒向け著作権ウェブコンテンツ及び冊子制作事業	一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）	561,737	317,730	主に初中等教育の教員、生徒に著作権の基本的な考え方等を理解してもらうことを目的として、これまで一般社団法人私的録音録画補償金管理協会（sarah）が制作していた「教師のための著作権講座」及び「生徒のための著作権教室」を全面改訂する。体裁はA4版36ページ程度とし、それぞれ5万部制作、令和6年度中に、初等中等教育の教育機関及び教育委員会に各1部配布する。また、その後は教育機関等からの求めに応じて配布することとする。 また、本冊子をベースとしたウェブコンテンツを制作し、令和6年度中にSARTRAS及びsarahのウェブサイトにおいて公開する。	編集会議の意見をもとに2冊子の見直しを行ったところ、内容の全面改訂を行う必要性が生じた。そのため予定していた執筆者に変更が必要となり、検討時間を十分に取った結果、冊子の発行が2024年度から2025年度にずれこむ事態となった。 編集会議は、SARTRAS会員団体と教育関係者で構成し、権利者側と教育機関側の両方の視点を取り入れ、冊子コンセプトを決定した。生徒編は、現行の教科書とも関連させており、より平易なレベルの内容としたため、各教育機関への送付後、多くの生徒に著作権に親しんでもらうことができると考えられる。冊子の送付先についても、教育現場での普及に効果的な送付先を検討し、決定した。 なお、ウェブコンテンツについては、教育現場の冊子への評価を踏まえ、2025年度に制作を行う。冊子を補完する要素を盛り込み、学びをブラッシュアップできるコンテンツとする。	C	○	○	○		
合　　計			65,561,737	61,354,086								

【委託事業】

管理No.	事業名	実施者名	委託決定額（円）	委託確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	委託表記	達成状況	特記事項
2023-2003	教育における著作物利用に係る諸外国の著作権制度等に関する調査研究事業（フェーズ2）	三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社	1,872,757	1,872,757	我が国における本制度の円滑な運用の参考とするため、MURC社を事務局とした専門家等による検討委員会を設置し、調査方針、調査項目、調査内容等を決定し、イギリス、フランス、ドイツ、オーストラリア、韓国及びアメリカの6か国を対象に調査を実施する。また、調査は、文献調査、書面調査のフェーズ1、オンライン調査、現地調査のフェーズ2の2つのフェーズに分け実施することとし、本事業は、そのフェーズ1の調査となり、文献調査及び書面調査を実施し、報告書としてとりまとめる。	文献調査で明らかになる範囲では可能な限り詳細に整理した。現地ヒアリング調査を通じて我が国の教育における補償金の分配では導入されていない合理的な分配方法を知ることができた。また、他国のCMOとのネットワークが形成できたという副次的な効果も得られた。	A	○	○	○	○	報告書のとりまとめは2024年度となったが、調査結果は分配規程の見直しのための基礎資料として活かされている。
2024-2001	「教員、及び児童生徒のための著作権セミナーの開催」事業（令和4年度からの継続事業）	公益社団法人著作権情報センター	12,977,000	10,455,819	初等中等教育の教員に対して、著作権制度の概要、学校運営上の著作権に関する留意点、児童生徒に対する著作権教育指導の留意点、授業目的公衆送信補償金制度の概要等のいずれか又は複数を解説するセミナーを開催する。また、児童生徒に対して、その発達段階に応じて、著作権制度の概要を解説するセミナーを開催する。 これらの著作権セミナーの開催を通じて、教員及び児童生徒の著作権制度への理解を推進し、もって社会全体の著作権制度への理解を高めることを目的とする。	事業計画では４０回開催を見込んでいたところ、５１回開催することができた。また、セミナー参加者を対象に行っているアンケート結果（回答者数８４２名、回答率４１．７％）では、参加して有意義であったとの回答が９７．９％、講義内容について分かりやすかったとの回答が９８．３％であったことから、本セミナーを開催した成果は十分にあったと考えられる。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

【委託事業】

管理No.	事業名	実施者名	委託決定額（円）	委託確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	委託表記	達成状況	特記事項
2024-2002	インターネット上の著作権侵害等への権利行使支援事業	一般社団法人日本ネットクリエイター協会（JNCA）	22,000,000	7,392,041	個人クリエイター等による、インターネット上等の著作権侵害への権利行使を支援することにより、個人クリエイター等の著作権の保護を主な目的とする。 インターネット上の著作権侵害に対し、権利者が権利行使できるよう、実務及び費用面の支援を行う。具体的には、文化庁が実施している「インターネット上の海賊版による著作権侵害の相談窓口」及び「文化芸術活動に関する相談窓口」と連携し、それぞれの相談窓口（以下、「相談窓口」と言う。）において弁護士が著作権侵害と認定した際に、権利者が権利行使できるように支援する。	本補助金制度の実施により、当初の想定を上回る成果が得られたと評価できる。インターネット上の権利侵害に対する支援という分野において、潜在的な需要を顕在化させ、また実際のケースを通じて制度の運用モデルを明確に示すことができた点は、非常に意義深い。 削除請求を中心とした案件において、支援決定を受けた申請者が弁護士等の専門家と連携し、法的手続きを着実に進めていることは、制度の有効性を裏付ける成果である。とりわけ、③～⑤の案件が年度末時点で継続中であることは、粘り強い取り組みが進行中であることを示しており、短期間での完了を前提としない支援のあり方を構築できた点は、評価に値すると言っていいであろう。 以上のように、制度の初年度において、実際の支援事例を通じて制度の目的や運用方針が現実のニーズに即していたことが確認できたことは、予想を超える成果であり、今後の継続的な改善と発展の礎となるものであると思料する。	B	○	○	○	○	
合　　計			36,849,757	19,720,617								

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2023-3004	第81回全国舞踊コンクール	株式会社中日新聞社東京本社	2,930,000	2,930,000	1939年に始まり、バレエ、現代舞踊、邦舞、児童舞踊、群舞、創作舞踊の全6部門年齢別13部に全国から約850組、1200人が参加する国内最高レベルで、最も歴史があるダンスコンペティション。著名な舞踊家やコレオグラファーを数多く輩出しており、「舞踊の著作物」の表現者・創作者の育成、舞踊芸術の発展に貢献している。上位入賞者の演技ダイジェストやインタビューを公式ホームページ、動画配信サイトなどで紹介し、上位入賞者によるアンコール公演も実施する。	事業申請時の想定や、前回を大きく超える来場者があり、より多くの方にコンクールの上位入賞者および舞踊芸術の成果を紹介することが出来た。審査が目的のコンクールと異なり、舞台成果・発表の場の公演として、多くの来場者を集められたことで舞踊芸術に関する著作物の普及の一助になったと考えており、出演者に対しても、今後の舞踊芸術への意欲向上にもつながった。	B	○	○	○	○	
2023-3005	教科書定番教材4作品の番組制作と公開	公益財団法人日本近代文学館	9,150,000	9,079,567	これまで５年にわたり開催してきた企画展「教科書のなかの文学／教室のそとの文学」の実績を踏まえ、教科書定番教材4作品（芥川龍之介「羅生門」、中島敦「山月記」、森鷗外「舞姫」、夏目漱石「こころ」）に関し、教室で放映して作品への理解を深めることのできる教材番組を、新たに編集・制作する。20～30分の番組を想定し、教育現場へ無償で貸し出す（オンライン及びDVDを予定）。NHKエデュケーショナルと合同での制作が実現し、NHKアーカイブ所蔵の映像も使用可能となった。2023－24年度では、森鷗外「舞姫」、夏目漱石「こころ」を制作、公開。	教材「舞姫」は、跡見学園女子大学から、また、教材「こころ」では、岩波書店、姫路文学館、熊本大学付属図書館からの全面的な協力を得られ、本館収蔵資料を中心に、貴重な資料画像・映像を数多く使用することができた 両番組共に、NHKアーカイブが所蔵する映像を使用することができたこともさらなる質の向上につながったものと思われる 前年度に引き続き、NHKエデュケーショナルの高い専門性が発揮され、イラストや地図などの視覚的なしかけが入った結果、全5章の映像教材の質がさらに高まったと考えている なお、ナレーションは、「羅生門」「山月記」と同様、元ＮＨＫアナウンサーの渡邊あゆみ氏にご担当いただいた 2024年5月7日より全国の高校の国語科5,300校へ向けてチラシを配布、2025年3月末時点で852名からの申し込みがあり、教育現場に無償公開され、授業に役立つものとして、多くの支持の声が寄せられている	B	○	○	○	○	
2023-3021	「『5分でできる著作権教育』Webサイトの改訂・充実」事業	公益社団法人著作権情報センター	2,106,000	2,021,578	校種・教科毎に、小・中・高等学校の児童生徒に授業中のわずかな時間で著作権について教えることができる指導内容を紹介した事例集、教員が知っておくべき著作権Ｑ＆Ａ等を掲載した『5分でできる著作権教育』Webサイトを、学習指導要領の改訂、GIGAスクール構想、著作権法改正等を踏まえて改訂し、コンテンツの充実を図る。	検討会での検討の結果、サイトの更改ではなく新設としたため、２０２４年度終了間際の公開となったものの、教育現場の状況を踏まえつつ、これまでにない新しい機軸を打ち出す内容となったことから、予想を超える成果があったと評価した。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2023-3046	第33回新人シナリオコンクール	協同組合日本シナリオ作家協会	2,101,818	1,941,993	昭和25年創設の日本最初のシナリオコンクール「新人映画シナリオコンクール」と昭和37年創設の「新人テレビシナリオコンクール」を平成4年に統合し、優秀な新人脚本家の発掘と育成を目的として運営し、数多くのプロ作家を 輩出してきた。 また映像作品の根幹を成す脚本を執筆する脚本家を発掘・育成することで映像文化全体の発展に寄与し、著作物創作の振興によって文化芸術の振興や普及を行うことも目的とする。	本事業は前年度の審査方法を継続し、さらに近年のコンクールの動向を踏まえ、新たにオンラインでの応募を開始することを予定していた。それに伴い費用が増加する見込みであったことから、共通目的事業の助成を申請させていただいた。助成をいただき、審査料とオンライン応募に伴うホームページの改修費に充てることで、前年度を上回る応募の増加とより厳密な審査の実施、さらに運営側の応募作品受付時のデータ入力等の負担軽減にもつなげることができた。 審査結果は、月刊シナリオで段階的に発表し、最終審査結果の発表後は、受賞作を雑誌・受賞作を含めた最終審査作品を協会ホームページに掲載した。これにより制度の周知に繋げると共に、脚本文化の発展と普及につなぐことができた。授賞式は、受賞者と最終審査対象者を招待し実施した。審査員やプロの脚本家である当協会会員多数も授賞式に出席し、交流を深めていただくことで創作意欲を刺激し、さらなる脚本家の育成につながった。	B	○	○	○	○	
2023-3050	デジタル脚本アーカイブズの構築（英語版追加）およびオーラルヒストリーの実施	一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム	15,000,000	15,000,000	普段目にすることが少ない「脚本」を授業や校内イベント等で有効活用して頂くため「デジタル脚本アーカイブズ」試作版を2023年3月に公開。サイトでは昭和期のドラマ脚本350作品を選出し作品紹介のほか、許諾を受けた脚本について全文無償で閲覧できる。 その更新版として、英語版サイトを構築するほか利用者からの質問を受ける双方向性機能等を追加。さらに現在活躍中の脚本家、放送作家へのオーラルヒストリーを実施し公開する。	今年3月に放送開始から100年を迎えたが、一般の人がほとんど目にすることのなかったドラマの脚本がインターネットで公開されるようになったことは、この取り組みの最も大きな成果と言える。 人間味あふれるセリフが詰まったドラマ脚本を読むことで、人間の心情や昭和の時代を実感するなどの教育的な効果や、映像化された作品を配信やDVDで視聴して脚本と比べることでドラマ制作に興味を抱いたり、原作の小説や登場人物が歌う歌詞からオリジナルの音楽に興味を持ってもらったりするなど、このサイトから多方面の分野への興味が広がることが期待される。 定期的な話し合いに加えて、医療関係者と意見交換をしたことで、活用方法について色々なアイデアが出されたことも今後の脚本利活用への展望につながった。 オリンピック競技にもなった「SASUKE」の演出家や、動画配信で常に話題になっているビジネス動画メディア「ReHacQ(リハック)」の仕掛け人へのインタビューを掲載したことで、2万9千回以上視聴され、たくさんのコメントも寄せられた。これは、将来のクリエイターに向けたメッセージ動画として大きな影響を与え、予想以上の成果となった。	B	○	○	○	○	
2023-3061	新「STOP！ 海賊版」キャンペーン　漫画愛プロジェクト	一般社団法人ABJ	35,000,000	34,173,374	これまでの「STOP! 海賊版キャンペーン」と同様に、読者の漫画愛に訴えかける、話題性のある啓発素材を制作、それをベースとしたアクションを次々と実施。「海賊版での閲読は絶対NG」「かっこ悪いこと」という世論を形成していく。 また、2022年度に制作した、「ありがとう」動画は、これまでにないクオリティに仕上がっており、屋外広告やさらなるデジタル展開で拡散を目指す。	Xの表示回数は2216万と驚異的な数字を叩き出し、朝日新聞展開時と同様に、新聞を写真に撮って投稿する読者や協力各社、そして助成金を活用した広告出稿の力で、約7000万リーチと過去最大級の拡散を果たした。加えて、「正規版をもっと充実させよ」という厳しい意見もいただきつつ、「マンガを愛しているなら正規版で」という前向きな意見をネット上で可視化（＝海賊版ユーザーも目にする）できたことは大きな前進だった。	B	○	○	○	○	
2023-3085	高校生直木賞（2023年度第11回）	高校生直木賞実行委員会	1,000,000	1,000,000	直近1年間の直木三十五賞の候補作品を全国の高校生たちで読み、討議を通じて評価し、さらに各校の代表者が一堂に会して議論を重ねることによって「高校生たちの今年の1作」を選出する。そのプロセスと並行して、高校生の「読解力」「語る力」「聞く力」を涵養するために実作者を講師に招いて読書会やトークイベントを複数回開催する。	過去最多となる46校の参加が実現し、地方予選・全国大会を通してのべ7時間をこえる議論をおこなって受賞作を選ぶことができた。受賞作は「高校生直木賞受賞」の新オビやポスター とともに書店に再出荷され、重版がかかり、現在、苦境にあえいでいる文藝著作物の振興、地域書店の振興に寄与できた。また、複数回開催したイベントや読書会にて人気作家から直接、創作のプロセスや読書歴などを具体的に聞いたことで、高校生たちの創作意欲、読書意欲が大いに刺激されたことも、末来の創作振興につながる成果といえる。さらに今回、特記すべきは、賛助会員企業（三菱地所株式会社）の協力で新たな読書会・会社見学会を開催できたことで、作家と高校生の交流の機会が増えたほか、第一線で働く社会人と高校生の交流の機会も生まれた。「社会人として活躍するためにも読書力、読解力、コミュニケーション力が必要」との話を聞き、高校生の社会意識、職業意識を大いに高めたと評価している。	B	○	○	○	○	
2023-3095	読書イベントポータルサイトの構築	一般社団法人日本書籍出版協会	21,600,000	18,598,160	広く本の魅力をアピールするため、全国の読書イベント情報を提供するポータルサイトを構築する。カレンダーと地図によって、いつどこでどのようなイベントが開催されるかを容易に検索できるようにする。さらに、出版物に関するニュースやトピックス、書店や美術館・博物館等の情報、その他の関連情報やおすすめ読書リスト等、読者の関心度に合わせた情報を提供し、本の魅力を伝える。	一朝一夕に爆発的な伸びは期待できないものの、２．事業に実施経過、３．事業の内容及び成果で述べた通り、登録点数も順調に増加しており認知度も徐々に高まっていると言える。 スタート当初から、短期で息切れしないよう、着実に書店ならびに読者の認知度を高め、継続的なサイトとして育てていこうとの趣旨であり、その方向に向かい順調に進歩できていると思う。	B	○	○	○	○	

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3001	中学・高校・大学ビブリオバトル全国大会	株式会社読売新聞東京本社	10,000,000	9,431,990	全国の中学生、高校生、大学生を対象にした書評合戦形式のコンテストで、聴衆が最も読んでみたいと思った「チャンプ本」を決める。各大会は読売新聞社が運営主体となり、文部科学省や各都道府県教育委員会などの後援を得て実施している。大会の様子は読売新聞本紙や、動画撮影・編集してインターネットなどで広く公開するほか、大会で紹介された本をまとめた冊子を作成して全国で無償頒布し、良書の魅力を広く伝えるとともに、著作者の創作意欲の向上につなげることで、著作物の普及・振興および活字文化の振興に寄与する。	全国大学大会は、地方大会を含めた出場者数が過去最多を更新した。全国高校大会は、ニコニコ動画生放送の視聴者数が過去最多となった。全国中学大会では、ビブリオバトルで初めて皇族が参加された。以上のように、ビブリオバトルの裾野が確実に広がっていることを実感できる大会を開催することができた。出場者のレベルも高く、出場者や観覧者からは大会開催を感謝する声や大会継続を求める意見が多数寄せられた。 ニコニコ動画生放送は、３大会で実施した。23年度までは、設備の関係で配信できない予選などは放送を中断していたが、24年度はその時間帯に前年度大会を再放送することで中断をなくし、視聴者を増やすことに成功した。 ゲスト出演した作家が「本を紹介する熱意に感動した」と述べ、優勝本になった作家が読売新聞を通して発表者に感謝を伝えるコメントを寄せてくれるなど、作家の創作意欲を高めることに貢献できた。また、優勝本になった出版社が、発表者のコメントを入れた帯を作って販促する計画を立てるなど、著作物の振興に寄与した。	B	○	○	○	○	
2024-3002	読書教養講座・活字文化公開講座	株式会社読売新聞東京本社	3,200,000	2,386,450	全国各地の大学を会場として、一般市民や学生を対象に読書の魅力を伝える無料公開講座を開催する。著名な作家や学者などを招いて自身の創作活動や読書の楽しみ方などを語ってもらい、パネルディスカッションや参加者との対話を通じて活字文化の振興を後押しする。読売新聞社が2005年に始め、講師を務めた作家らは延べ150人を超えている。講座の模様は読売新聞紙面で詳報するほか、撮影・編集した動画をインターネットで広く無料公開し、読書を通じた著作物の振興・普及に寄与している。	直木賞を受賞したばかりの河﨑秋子氏と万城目学氏、その分野でトップを走る堀川恵子氏と鴻巣友季子氏、アイドル活動と両立している加藤シゲアキ氏と、いずれも話題性のある作家を講師に招くことができた。一般観客を入れた３講座では、いずれも昨年を大きく上回る来場者があり、ディスカッションや質疑応答も活発に行われ、関心の高さが証明された。サイトを更新したことによる効果で、ウェブ掲載記事や動画への反応も増えている。	B	○	○	○	○	
2024-3003	第34回新人シナリオコンクール	協同組合日本シナリオ作家協会	1,536,000	1,433,842	昭和25年創設の日本最初のシナリオコンクール「新人映画シナリオコンクール」と昭和37年創設の「新人テレビシナリオコンクール」を平成4年に統合し、優秀な新人脚本家の発掘と育成を目的として運営し、数多くのプロ作家を輩出してきた。 また映像作品の根幹を成す脚本を執筆する脚本家を発掘・育成することで映像文化全体の発展に寄与し、著作物の振興によって文化芸術の振興や普及を行うことも目的とする。	本事業は、一昨年度よりオンラインでの応募を開始し、現在ではその仕組みが定着しつつある。今年度は応募作品数が300件を超え、これまで以上に多くの参加があった。その結果、審査料も増加したが、助成金をいただいたことにより審査の質を維持することができた。	B	○	○	○	○	
2024-3006	第5回SOLASIDO「詩のあん唱」コンクール	公益社団法人全国学校図書館協議会	4,600,000	4,600,000	全国の小学生に、お気に入りの詩を1編、暗唱している動画を募集する。個人でも、グループや団体でも応募できる。朝日小学生新聞、当会のWebサイト、ポスターなどで呼びかける。公式ホームページ内の応募フォームに登録し、スマートフォン、デジタルカメラ、ビデオカメラで撮影した動画を180秒までに編集してアップロードする。	貴協会の助成金のおかげで多角的な広報活動が功を奏し、応募者数を50%以上増やすことができたから。	B	○	○	○	○	
2024-3008	2024年第30回日本管楽合奏コンテスト	公益財団法人日本音楽教育文化振興会	5,000,000	5,000,000	本コンテストは、管打楽器及び吹奏楽の研究・調査・啓発により音楽文化の向上を図り、小・中・高の音楽教育の充実・発展に寄与するとともに、合奏活動を通じて著作権等への理解を深めることを目的に、全国大会では毎年約10,000名の参加を得て実施している。小学生部門に加え中・高校生は編成規模に応じて部門を設け、各部門ごとに最優秀賞・優秀賞を選定し、各部門の最高位である最優秀グランプリ賞受賞団体には文部科学大臣賞が授与される。	今年で第30回目を迎え開催した日本管楽合奏コンテストは、予選審査から厳正に選考された出演団体、北は北海道から南は鹿児島県まで、総勢200の団体が全国大会に喜び勇んで集い合いました。いずれの出演団体においても、日頃から感謝の気持ちを大事にする姿勢やその行動に基づく演奏には、聴いている方々の心に響く豊かな音楽性に富んだ合奏であり、素晴らしい感動となって体一杯使って表現されていました。運営面として協賛収入が減少する一方、物価高による支出費用を要するなど運用資金が厳しい状況にありましたが、助成により、以前にも増して充実した体制でコンテストを実施することができ、出演団体が日頃の練習成果を最大限発揮できる場を無事に提供することができました。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3009	2025年第27回日本ジュニア管打楽器コンクール	公益財団法人日本音楽教育文化振興会	3,000,000	3,000,000	将来の我が国における管打楽器演奏の発展に貢献する人材の育成や教育現場における管打楽器教育の啓発・普及を図り、著作権等に対する理解を深めることを目的に、毎年約3,000名の全国の小学生・中学生・高校生が参加して実施される音楽コンクールである。小・中・高の各コースに、ソロ部門（12種）とアンサンブル部門（3種）があり、ソロ部門の最も優れた演奏者には文部科学大臣賞（小・中・高に各1枚）が授与される。	今年で27回目となる日本ジュニア管打楽器コンクールは、予選考会の音源審査により厳正に選考された出場者は、北は北海道から南は沖縄県まで、全国から本選考会へ一堂に会しました。「ご指導頂いた先生方や支えてくれた家族へ感謝の気持ちを大切に大舞台に立つ」との熱い想いをプログラムメッセージに託した若き演奏者たちは、豊かな音楽性に富んだ心に響く演奏を会場中に届けておりました。協賛収入が減少する一方、物価高による支出の増加等運用資金が厳しい状況でありましたが、助成により、例年以上に充実した体制でコンクールを実施することができ、日頃の練習の成果を存分に発揮できる環境を無事に提供することができました。また前回に引き続き、本選考会アンサンブル部門については、インターネットによるライブ配信を行い、会場に足を運べない方々にも演奏の模様をご覧頂くことができ、参加者や保護者から感謝のお言葉を頂戴しました。	A	○	○	○	○	計画通りに事業は実施されており、精算を含む事業完了報告が期日内に適切に行われた。
2024-3010	第14回えひめこども新聞グランプリ	株式会社愛媛新聞社	1,750,000	1,609,549	県内の小学校、特別支援学校小学部の全児童を対象とした新聞コンクール。A2サイズの応募台紙に、各児童が自由にテーマを考え、取材し、手書きのオリジナル新聞を制作する。応募は各学校から市町の教育委員会経由。審査委員は小中学校長らで構成。地区審査と最終審査を経て、グランプリ（最優秀賞）などを決定する。入選発表は新聞紙上にて。表彰式や県内3地区での作品展を開催し、新聞社HPでも入選者作品を公開。	2020年度にコロナ禍で当事業を中止した影響もあり、21年度の第11回以降、応募数はコロナ前より落ち込んでおります。加えて、県内児童数の減少があり、こちらの思惑通りに応募数を増やせていないのが現状です。また、学校現場では１人１台タブレット端末の普及でＩＣＴ教育が盛んに行われております。当事業は、児童自らがテーマを決め、手書きで応募台紙を自由にレイアウトしてオリジナルの新聞を応募するコンクールで、学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」に寄与する事業として、今後も続けていく所存です。 応募数は昨年度より減少しましたが、入選作品は上級生になるにつれ、着眼点や取材力、文章力、レイアウトなどが上達しておりました。特に上位入選者の作品は、実際の新聞記者を思わせるような出来映えでした。	A	○	○	○	○	計画通りに事業は実施されており、精算を含む事業完了報告が期日内に適切に行われた。
2024-3013	第77回中部日本高等学校演劇大会	株式会社中日新聞社	1,640,000	1,121,017	高校生の演劇活動の支援と普及のため1948年に始まった高校生の演劇大会。中部6県（愛知、三重、岐阜、福井、富山、石川）で行われる各県大会の上位校を対象としており、本大会の最優秀賞「文部科学大臣賞」を受賞した高校は全国大会に出場することが出来る。大会最終日には、演劇における多様な表現方法を学ぶための研修会も行われる。	本大会では多くの学校が創作劇を演じ、高校生自身が身近に著作権について考える貴重な機会になりました。公開講評会や生徒交流会を通じて刺激を受け、創作劇への情熱もより強くなったと思います。今後、創作劇のみならず、他分野でも著作権への意識を持ちつづけてくれることでしょう。さらに本大会では新聞広告が効果を発揮、一般来場者が増加、高校生の創作した良質なコンテンツに触れることで、一般の方の著作権の意識が向上しました。この点は本事業において最も評価できる点と考えています。	C	○		○	○	
2024-3015	芸術家のセーフティネットの構築に係る調査研究	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	14,494,130	11,823,877	2022年度より弊法人は「芸術家の社会保障等に関する研究会」を立ち上げ、文化政策、労働法及び社会保障法の専門家による、既存の公的な社会保障制度等を活用した芸術家のセーフティネットのあり方について検討している。本事業では、2023年度までの研究まとめを踏まえ、実演芸術、美術、映画、文芸など幅広いジャンルの芸術家等のためのセーフティネットの具体案の提案と、必要性についての理解促進、普及啓発を目指す。	当初予定になかった２回のセミナー開催と、文化経済学会企画セッション及びアートノト講座の企画運営を行ったことにより、海外の実情と日本の課題を、実演家、スタッフ等だけでなく、文化芸術の担い手、マスコミ、行政関係者、実務家等にも幅広く共有することができた（報道は別添掲載記事のとおり）。 今年度は、二年度にわたる助成事業として採択いただいた初年度にあたる。来年度は、今年度行った調査研究や、アンケート調査結果を幅広く周知広報することで、芸術家のセーフティネットに係る問題意識の醸成をより幅広く深めていきたい。	B	○	○	○	○	
2024-3016	第40回かながわ音楽コンクール	株式会社神奈川新聞社	2,000,000	1,905,609	「技巧より感性」を合言葉に、神奈川県内における音楽教育の向上・優れた音楽的才能の発掘・音楽の普及を目的として1985（昭和60）年に創設された。 「かなコン」の愛称で親しまれ、ユースピアノ、ヴァイオリン、ピアノ、フルート、声楽の５部門に全国各地からこれまで述べ50,000人が出場。高名な指導者に師事する出場者が非常に多い“音楽の激戦区”といえる神奈川のコンクールは、全国的にみても水準の高いコンクールとして定評がある。	少子化に伴い年々出場者数は減っているものの、コンクールの部のレベルの高さは相変わらず担保されており、保護者や指導者からは「いつかはかなコンに出られるようになれれば良いわね」と目指すべき舞台として認識されている。今後も神奈川県の文化振興に深く寄与するべく目指すべき高みとして開催し続けていく。	C	○		○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3017	2024年第20回本屋大賞	特定非営利活動法人本屋大賞実行委員会	4,700,000	3,940,000	全国の書店員が年に一度「この本は絶対に多くの人に読んで欲しい」と思った本を投票し、本屋大賞として発表。人々の読書活動に寄与し、多くの著作者や著作物を知ってもらうきっかけになることを狙い、幅広く出版業の発展に寄与する。	・大賞受賞作が話題作であったこと、韓国から翻訳部門作家も来日したこともあり、 今年は今まで以上に全国から書店員が発表会場にお祝いに駆けつけてくれた。改めて著作物である本の大切さ、素晴らしさを著作者である作者とともに会場で確認しあうことができ、大変有意義であった。 ・選考に参加した書店員の投票数は過去最高。 第１次投票が530書店736人（前年比121人増）、第2次投票が342書店443人（前年比21人増）。全国の書店数が激減している状況を鑑みると第2次は驚異的な増加。全国の書店員の同賞に対する期待とモチベーションはますます高まっているといえる。	B	○	○	○	○	
2024-3018	「著作権情報センター資料室の蔵書の充実、利用者サービスの拡充」事業	公益社団法人著作権情報センター	7,618,000	6,761,405	誰でも利用できる施設として一般公開している著作権情報センター資料室に関して、図書選定委員会での検討を経て、新たに発行された国内外の著作権関連図書資料の蔵書の充実を図り、利用者サービスとして2022年12月かた開始した文献複写サービスを継続する。 また、蔵書の増加を受けて蔵書点検を行い、図書資料を整理して、利用者がより利用しやすいように配架調整を行う。	本事業により、資料室の蔵書がさらに充実し、研究者等の要望に応える体制を継続できた。一方、蔵書点検、書架整理については、専任司書が日常的に実施していることから、一斉点検は２年に１度ととし、2024年度は実施しなかった。	B	○	○	○	○	
2024-3019	「著作権論文の募集・顕彰・論文集の発行」事業	公益社団法人著作権情報センター	6,841,170	5,336,325	昨年度、応募者から提出された著作権・著作隣接権に関する論文の中から優秀な論文を顕彰するとともに、論文集の刊行及び配布を行うことにより、次世代を担う著作権法、著作権制度等の研究者等の研究奨励及び育成を図り、その適切な発展を期することを目的とする事業である。	応募者15名について、6名の有識者からなる論文審査委員会を３回開催し、慎重かつ厳正な審査を行った結果、5名の論文を入賞とした。 入賞した5名の論文については『第11回著作権・著作隣接権論文集』としてまとめて書籍として発行するとともに、国立国会図書館ほか全国の都道府県中央図書館、大学図書館、著作権関係機関、著作権法研究者、申請者の会員など約1,200者に寄贈した。その結果、申請者が主催する月例著作権研究会の講師のレジュメ、講演録において、参考文献として紹介される事例が少なくとも２件あった。	B	○	○	○	○	
2024-3020	学校へのアウトリーチによる著作権制度等の普及啓発を図る事業	公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団	9,988,660	6,265,696	関東甲信越地域の小中高等学校を対象に、著作権の保護対象となっている楽曲をプログラムしたアウトリーチを開催して、教育機関向けに著作権・著作隣接権制度の普及啓発を図る。解説に室内アンサンブルのLIVE演奏を加えることにより、児童生徒、教育従事者の関心と理解度を一層高め、記憶の定着を図る。	著作権制度について演奏と共に解説することで、制度に対する子供たちの関心度を高め、記憶に定着させたいという当初の目的を達成することができたと思います。どの学校もWEB授業は実施しており、先生からも著作権制度について教えているとのことでしたが、アンケート結果からは特に音楽関係のことの解説ということもあったためか、知らなかったことがあったとという多数の感想をもらったことからも一定の成果を得られたと考えております。	C	○		○	○	
2024-3021	バリアフリー図書の普及と活用のための人材育成事業	公益財団法人文字・活字文化推進機構	13,600,000	11,801,598	本事業では、予算制約のある学校図書館などにバリアフリー図書を貸し出し、展示を通じて司書や一般の人々に理解を促し、バリアフリー図書の普及を図ります。貸し出しだけでなく、支援を必要とする人々に適切に届けるための基礎知識など読書バリアフリーに関して体系的に学ぶことができる「読書バリアフリーサポーター講座（仮）」や教材開発も行います。全国的なニーズに応じ、現地開催やオンデマンド配信など柔軟な手法で展開します。	体験セットについては、昨年度よりもセット数を増加して実施したが、特に秋の読書週間や障害者週間など問い合わせが殺到し早期終了となった期間もあったため。通年でも、想定していた受付期間よりも早い申込締切となった。 また今年度は本来の対象である学校図書館・公共図書館のみならず、教育委員会や国際交流基金、読書・図書館関連団体、NPO法人などからのお申し込みにも対応し、より様々な属性の方へバリアフリー図書の魅力や意義・活用方法を伝えることができた。なお自治体から一斉貸し出しの依頼もいただくなど、申請時には想定していなかった活用方法も生まれた。 さらに、今年度追加となった図書は出版元より「読書バリアフリー体験セットに追加してほしい」というご要望をいただいたものも多く、業界内における本セットの影響力も向上したと感じられたため。 サポーター養成講座については、2週間程度の募集期間で定員の6.7倍の方からお申し込みいただけるなど、講座自体に非常に高い需要を感じたため。 また参加者からのアンケートでは講座の満足度は95％と高く、「4回の講座を通して概論と当事者の話の両輪がとても良く、理解が深まったように思います」といった講座カリキュラムへの好評のお声の他、「個人的には著作権法37条の理解を深めることができて良かったです」などの意見もいただき、著作権に関する理解向上にも寄与することができた。 最終回講義後、1期生の間で全国各地の取り組みを共有しあう仕組みもでき、読書バリアフリーに関わる人材の全国的なネットワークづくりに繋がった点からも、予想を超える成果があったと考えている。	C	○	○	○		

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3022	教育現場に直結する『日本近代文学大事典』増補改訂デジタル版の継続的構築（継続）	公益財団法人日本近代文学館	10,750,000	9,123,895	2022年5月にリリースされたオンライン版『日本近代文学大事典』を補訂し、未登載のデータ、新規項目を増補し、一年ごとに改訂していく。特に、第１次リリースで実現できなかった、文学者の肖像写真・原稿、図書などの文献の写真は、教育現場で重要な意味を持つと思われるので、積極的に増やしていく。これらによって近・現代文学に関する、学術的にもっとも信頼性の高い、総合的なデータベース事典を目指したい。	2024年度に予定していた事業内容について、おおむね滞りなく進行することができた 第2期で367枚を公開した「肖像写真」に関して、第3期では297枚をあらたに公開した これによって、当館所蔵の肖像写真のうち、公開可能なもののほぼすべてをアップすることができた また第4期では、「雑誌」創刊号に焦点を絞り、本館が紙媒体で刊行した大事典「雑誌」事項1,633点のうち、半数以上の896点の創刊号の表紙写真をアップすることができた これらによってよりビジュアルな要素が強くなり、学校現場ほかにおいて、より利用価値の高い文学事典にブラッシュアップすることができたものと考える また、現在ネット上に出回る作家関係の映像資料は権利関係に疑念のあるものも多く、今回公開したものは当館の手続きを通すことによって二次使用することが可能となる オンラインで利用することのできる近代文学関係の「事典」の中で、専門家の執筆による唯一オーソリティのあるコンテンツとして、この事業の果たした役割はきわめて大きい	B	○	○	○	○	
2024-3024	新聞を活用した教育事業	福島民友新聞株式会社	2,500,000	2,500,000	新聞閲読から得られた感想、意見などが作文された新聞感想文コンクールの開催を軸に、作品制作に役立つ新聞記事ワークシートを綴ったノートの配布や、新聞をはじめとした活字媒体の有用性を訴求する学識経験者などの講演会を開催する。	著作物である活字媒体を活用したワークシート発信や新聞感想文コンクールには、小学生から高校生まで広い世代が参加し、読解力などの向上や著作物制作への意識を高めることができた。講演会では教育関係者からの参加者も多く、活字媒体がもたらす有用性やその利活用の効果を訴求することで、学校現場での著作物利活用及び創作活動に対し積極的かつ継続的な取り組みを推進することができた。	B	○	○	○	○	
2024-3026	日本出版美術家連盟クロッキー会	一般社団法人日本出版美術家連盟	800,000	800,000	美術の基礎となる人体デッサンの機会を創出し、美術家の創作助成、人材の育成を行う。職業画家、イラストレーター、アニメーターなどに安価（金曜500円・土曜1000円）に技術研鑽の場を提供するクロッキー会（デッサン会）。著作物の創作の振興のため2015年より継続している事業。	チラシやWEB等を活用した広報強化により、イベントの認知度や内容理解は大幅に向上し、参加機会も増えたことで多くの申込が寄せられた。一方で、WEBシステム上での一部の案内メール不達や情報伝達の不均衡が発生した。当初予定していた外部委託による案内業務も、諸事情により内部対応に変更したため、担当間での作業負担が増加する結果となった。予想を上回る申込数により、キャンセル待ち対応や案内作業において一時的にメール送受信のエラーなどが一定程度発生した。 これらの経験を踏まえ、次期以降は、参加者数や登録者数の増加を見据えたシステム改修および案内業務の効率化を専門家の協力のもと進め、より安定した運営体制の構築を検討中。	B	○	○	○	○	
2024-3027	2024年日本出版美術家連盟展・物故会員展（JPAL展）	一般社団法人日本出版美術家連盟	1,750,000	1,750,000	日本出版美術家連盟会員の作品展示。（会場１：ギャラリー5610）と物故会員濱野彰親、小松崎茂、加藤敏郎の展示。（会場２：弥生美術館）。挿絵画家の作品、挿絵文化の歴史紹介、著作権の啓蒙展示を実施。	展示会場１（ギャラリー5610）500名、展示会場２（弥生美術館）　3,000名／計3,500名と高めの目標を設定していたが、目標を大幅に超える来場者5330名（243名+5087名）の来場者を獲得できた点。ギャラリー5610の展示については猛暑や悪天候の中かなり苦戦を強いられたが、日本の挿絵ジャンルに新たな興味を持つ層が新たに拡大できたと思われる点。	B	○	○	○	○	
2024-3030	「図工・美術授業にカメラ」	公益社団法人日本広告写真家協会	8,773,947	7,847,108	全国の小・中学校を対象として、図工・美術授業にカメラを取り入れた実践授業を実施。 その成果発表の場として、「全国学校図工・美術写真公募展」を開催。児童・生徒が学校の教育活動で造形表現した作品を撮影し、メッセージを添えて応募。 入賞・入選作品は当協会のホームページ、図録付き教則本「始めよう、カメラの授業!」に掲載。受賞者には賞状を授与する。	引き続き助成をいただいたことによって、多くの学校でカメラの授業が出来ました。公募展の応募数は前年度と比べて約40％増え、3296名からのご応募をいただきました。また、授賞式を開催することができ、たくさんの方にご参加いただきました。とても感動したとの声も多くいただき、思い出に残る式になったと思います。今年度も入賞・入選作品のオンラインギャラリーを実現することが出来ました。	B	○	○	○	○	
2024-3031	第34回兵庫県学生ピアノコンクール	株式会社神戸新聞社	1,650,000	1,650,000	1991年より34年続いている県内最大のピアノコンクールで、ピアノ愛好者には「県コン」の愛称で親しまれています。　毎年約1,000人の参加があり、これまでに延べ30,000人以上の学生が演奏し、音楽に携わる人材育成の場としても定着しています。プロのピアニストも多数輩出しています。	少子化やコロナ禍の影響もあり、全体の出場者数は減少傾向にありますが、一部の地方では出場者が増加している地域も見られ、県内各地から幅広いエントリ ーをいただきました。また、本選に向けて一般観覧を希望する問い合わせが多数寄せられ、当日は約500名の聴講者が訪れました。 今回、出場者と保護者を対象に実施したアンケートでは、当コンクールへの出場動機として「技術向上の機会になるから」(62.6%）が6割以上と最も多く、次いで「実力を試したいから」(50.4%）が半数を超える結果となりました。このことから、出場者の多くが意欲的に参加しており、当コンクールが自身の成長を促す場として高く評価されていることが伺えます。こうした傾向を維持しながら、今後はさらなる多面的なアピールを通じて、より多くの方々にご参加いただけるよう努めてまいります。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3032	第19回TIS公募	一般社団法人東京イラストレーターズ・ソサエティ	1,200,100	0	イラストレーション作品のコンペティション。1995年より始まり今回で19回目である。新しい才能の発掘と次世代に続くイラストレーター育成を目指しており、現在活躍しているイラストレーターを多数輩出している。	高い応募者数と応募作品数を維持できたことと、入選作品の質の高さを実感できた。現在、プロを目指すイラストレーションのコンペとしては同種のものが減少する中、イラストレーション文化の発展のためには重要な事業であると考える。	C	○		○	○	
2024-3033	動画で学ぶ　はじめての読みきかせ	一般財団法人出版文化産業振興財団	5,176,000	648,543	読みきかせの基礎が学べる動画を教材に自治体や書店・子育て支援団体などの協力を得て、読みきかせに興味のある子育て世代の主婦や学生、読み手に少ない男性なども募集。 動画閲覧後、さらにスキルを磨きたい方のため、全国2会場程度で実践経験が出来る講習会を開催。併せて全面協力が可能な自治体があれば自治体主導の「リアル講習会」の開催を呼びかけ、成果を実際の自治体に活かせるようにしていく。	アンケートの回答がこちらが意図した内容の返答が多かった。 動画を視聴して、その後実技という流れは忙しくて講座に通えないという方でも学べるため、ベテランから初心者まで参加者の幅があった。特に実技講座までつなげたことは大変好評でした。	C	○	○	○		
2024-3034	本との新しい出会い、はじまる。BOOK MEETS NEXT2024	一般財団法人出版文化産業振興財団	44,223,000	30,527,111	「BOOK　MEETS　NEXT」は年間を通して、定期的に全国規模の店頭企画を計画し、集客や新たな読者の育成を目指す。 「秋の読書推進月間」では「神田神保町」を中心に、周辺の大学や企業などを巻き込み、最大全国５会場と連携して全国規模のブックイベントにする。同時期には今までのノウハウを活かし、店頭の盛り上がりも仕掛けるなどリアル会場と書店店頭、Webでのキャンペーンなどを同時に行い、より広い層へのアプローチを図る。	事務局だけでは限界のあった取り組みをプロデューサー制度を活用したことにより、 出版社の編集担当などが参画し、多くのイベントを開催することが出来た。 また、各地域でも書店・図書館・大学・自治体などが協力し、読書を広める取り組みが 出来たため。全国的な広がりが出来た。 一番、大きな成果は毎年行うことが出来ているため出版関係者の多くの方々に認識され るようになり、業界全体の協力体制が出来てきたことにあると思います。	C	○	○	○		
2024-3035	映画の新しい才能の発見と育成のための映画製作事業「PFFスカラシップ」	一般社団法人PFF	1,000,000	991,319	自主映画の映画祭「ぴあフィルムフェスティバル（ＰＦＦ）」で入選した監督から1名を選出し、長編劇場映画を製作するトータル・プロデュース事業の第30回。新人監督の映画製作から劇場公開に至る過程を通して、新たな監督、脚本家、音楽家、俳優等の人材育成に寄与する。	2025～2026年の2事業年度にまたがる映画製作のため、初年度は脚本の完成までを目指していた。言葉のハードルがあり若干の心配もあったが、日本人脚本家との共同執筆を行うことで予定通りに完成することができた。	B	○	○	○	○	
2024-3037	全国選抜小学生プログラミング大会（４７都道府県大会および全国大会）	株式会社共同通信社	50,000,000	50,000,000	小学生向けのプログラミング大会の実施運営。 47都道府県で地方大会を実施し、各大会で優秀な成績を収めた者を各都道府県の代表者として全国大会へ推薦する。全国大会は3月に東京都内でリアル開催し、各都道府県代表がプレゼンテーションで競い合う。大会前日には出場者向けにプログラミング関連のブレイベントも実施する。	全国新聞社事業協議会を構成する各新聞社のプログラミング大会運営者から、著作権に関する問い合わせが多数あり、リーフレットや審査時のチェックポイントの共有を行うことで、都道府県大会から全国大会まで隅々と著作権意識の啓発が行われたと考えられる。 また、応募作品に「出典表記」を記載する作品が増えるなど、応募者側の著作物利用の意識向上がうかがえた。全国大会本番の質疑応答で「著作権物の（正しい）利用に苦労しました」と実感を語る代表者もいた（８．その他欄に動画URL添付）。著作権意識啓発用のリーフレット「著作権知っトク帳」（小学生用、指導者用の２種）を全国の教育委員会、公立小学校、プログラミング教室等へ郵送したところ、一部教育委員会担当者から電話があり、本取り組みに対する感謝の気持ちが伝えられた。加えて、要望のあった複数の教育委員会、小学校教諭に対して、リーフレットのＰＤＦデータを提供した。	B	○	○	○	○	
2024-3038	2024年度「小学生がえらぶ！“こどもの本”総選挙」子供向け読書推進セミナー	特定非営利活動法人こどもの本総選挙事務局	4,000,000	3,752,534	のべ60万人以上の小学生が参加している「こどもの本総選挙」を通じ、こどもたちの読書推進を行う。「こどもたちが自ら読みたい本を選ぶ」という読書推進の在り方を世の中に広めていくため、本年は主に学校への普及および啓蒙活動として、学校の教員や司書向けのセミナーを実施する予定である。	計画時に想定していた集客150名という見込みは上回ることができました。単にイベントを行うにとどまらず、HP改修と合わせて行うことで、「こどもの本総選挙」全体の読書推進活動との一体で、多くの方に知っていただく機会を作ることができました。ただし、イベントの実施回数は1回になってしまったので、ここは改善の余地があると考えております。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3039	「新しい子どもの歌」プロジェクト	一般社団法人全日本児童音楽協会	1,232,000	325,116	当会の活動の中心である「新しい子どもの歌プロジェクト」は、作詞コンクール、コンサート、楽譜出版、作詞作曲コンテスト、歌唱コンテスト、YouTube配信から成る事業であり、幼児・児童・生徒を対象とした「子どもらしい歌・子どもが喜んで歌える歌」の創作・普及、ならびに、子どもたちが「新しい子どもの歌」に触れて言葉と音楽の素晴らしさや面白さを学ぶ機会を提供することを目的としている。	2024 年度は、共通目的基金の助成対象として採択されたことをきっかけに、特に広報活動について従来以上に積極的な展開を行った。当協会会員へのチラシ送付部数を「出品者10 枚程度、その他の会員５枚程度」としてきたところ、「出品者20 枚程度、その他の会員10 枚程度」と倍増させて、会員の手を通じた拡散を図ったほか、実行委員有志の営業活動により、首都圏の楽器店等へのチラシ設置数を増加した。 新たな試みとして「昼の部」「夕方の部」の二部構成での開催となったことにより来場者が分散したこと、また当日の猛暑の影響もあり、来場者は前年度比微増の合計170人程度にとどまったが、アンケートの回答内容から、例年以上に当協会会員ではない方、さらには、音楽家ではない一般客の増加傾向が見て取れた。これは、積極的な広報活動の成果であり、当協会、ひいては「新しい子どもの歌」というジャンルへの関心の高まりをも示すものである。 第４回新しい子どもの歌作詞コンクール、第３回ぜんじおんSNS 作詞作曲コンテストにも大きな反響があり、受賞者から５名の新規入会者を獲得した。	B	○	○	○	○	
2024-3040	第17回書道パフォーマンス甲子園（全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会）	書道パフォーマンス甲子園実行委員会	10,000,000	10,000,000	高校書道部による書道パフォーマンスの日本一を決定する大会。書道パフォーマンスは、1チーム12人以内の選手が音楽に合わせて縦4m×横6mの紙に制限時間6分間の中でダンスなどの趣向を凝らしたパフォーマンスと共に、自分達の伝えたい思いを詩に込め、様々な書体を使って作品を作り、書や演技の美しさなどを競い合う。優勝校には文部科学大臣賞を授与する。	助成事業により導入したＬＥＤモニターや演技場を四方向から囲む仮設スタンドは、大会の演出を大きく向上させ、会場は高校日本一を決定する場にふさわしいものとなりました。大会に初めて出場した教員からは「想像以上の会場に感動した」との感想を得ることができ、改めてＬＥＤモニターの導入と演技場を四方向から囲む仮設スタンドは、大会の魅力アップにつながっていると実感しました。 また、今大会は能登半島地震による復興応援枠を設けたことにより、昨年よりも2校多い23校の参加となりましたが、前回の反省による増強したエアコンにより、異常ともいえる猛暑が続く中においても快適な控室を選手達に提供することができました。これは貴協会の助成の賜物であり、主催者として非常に大きな成果であると感じています。	B	○	○	○	○	
2024-3041	教育現場でのサステナブルでユニバーサルな著作権教育支援	一般社団法人大学ＩＣＴ推進協議会	12,432,400	9,693,172	これまでの開発教材（教員用冊子・学生用動画）を用い、教育現場における著作権教育の推進をより広く行う。 １）著作権法の改正状況を把握し、教材の点検・維持管理を行う。 ２）初等中等教育段階の教員を含めた教育担当者に対する著作権教育支援（出前講習会の実施、教員用冊子を用いた自律学習・研修支援、著作権知識の実態調査）を推進する。 ３）留学生に向け動画の英語化（字幕等の文字情報付与）と英語日本語切り替えウェブサイトの構築を行う。	・教師用教材「すごくわかる 著作権と授業」冊子を教育委員会に配布後、追加冊子の希望および出前講習会への引き合いが多く、出前講習会については2025年度の予約にまで至っている状況である。 ・成果物はすべてCCライセンスにて公開し、各所で適切に利用できるようにしている。そのため、例えば、企業の社員研修への動画利用など、本事業の主たる対象である学校教育の構成員を超えた問い合わせ（教材利用を含む）があり、より広い対象への著作権教育に関する効果が示唆される。	B	○	○	○	○	
2024-3044	日本国際著作権法学会（ALAI Japan）学会誌出版事業	日本国際著作権法学会（ALAI Japan）	2,305,000	2,180,311	本事業は、日本国際著作権法学会（ALAI Japan）の学会誌「国際著作権法研究」を、2024年度内および2025年度内に１冊ずつ出版し、これを権利管理団体等の関係団体や大学等教育機関の図書館等（約100団体程度）に寄贈するものであり、「著作権保護の法原則の擁護および普及」のために行われる諸活動の成果として、「著作権保護の法原則」を広く社会に普及させることを目的とする。	本事業は、著作権法に関する研究成果である本学会誌を権利管理団体等の関係団体や大学等に寄贈するものであり、寄贈先には好意的に収蔵いただいておりますので、予想通りの成果が上がったものであります。その上で、著作権制度に対する理解と関心がどれほど高まったか、というのは、今後、時間をかけて明らかになるものと考えております。以上のことから、「B：予想どおりの成果があった」と判断させていただきました。	B	○	○	○	○	
2024-3045	日本音楽を紹介する番組コンテンツ制作事業	一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団	20,000,000	9,730,000	海外における日本音楽の普及・認知向上を目指し、国内外で活躍する日本人アーティストや音楽を紹介する番組（毎週土曜日21:00からインターFMで放送中）を制作し発信する事業である。収録した音声はインターFMで放送し、収録時の映像と音声はオンラインで配信する	昨年度の事業においては、まず番組放送のスケジュールを安定的に確保し、リスナーが規則的に聴取できる環境を整えたことで、一定の聴取層を獲得することに成功したと評価している。また、アーカイブ配信を活用し、ライフスタイルに合わせていつでもコンテンツを楽しめる仕組みを提供できた結果、より多くのユーザーへの効果的なリーチが実現できた。さらに、番組内では、アーティストが自ら楽曲の創作過程や制作背景を語る場を設けたことで、作品の誕生に至る想いや動機に対する理解が深まり、創作そのものの意義を再認識するきっかけとなった。これにより、音楽ファンのみならず、制作側のモチベーション向上にも繋がったと考える。総合的には、定期的な放送や多様な配信形態によってユーザーのニーズに応え、アーティストの生の声を届けることで、創作活動の価値や魅力を幅広く普及させることに成功したと自己評価している。今後もさらなる内容充実と露出拡大を図り、一層の認知度向上と創作意欲の喚起を目指していきたい。	C	○	○	○		

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3046	第21回東京国際ミュージック・マーケット（Tokyo International Music Market）ライブコンサート事業	一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団	16,000,000	0	東京国際ミュージック・マーケット（TIMM）は、日本音楽の海外展開・国際交流イベントで、ライブコンサートはアーティストがパフォーマンスを行うことにより音楽作品を披露する場である。毎年秋のTIMM期間中は3日間で合計10～15組が出演を予定するが、期間外でも規模を縮小したミニコンサート（毎月1回1～2組）を定期的に実施し、その模様をオンラインで配信する	第一に、定量的な成果指標において、来場者数・視聴者数・海外来場者数など、主要な指標で前年を大きく上回る結果を記録した点が挙げらる。ショーケースライブの来場者数は2,106名と、目標1,500名を大きく超え、昨年比でも約33%増加となった。特に、海外からの来場者は528名に達し、国際的な注目度が高まっていることを明確に示す結果となっている。また、ライブのアーカイブ配信を行ったYouTubeでは、期間中に93,425回という非常に多くの視聴があり、さらに告知動画等も含めた総再生回数は112,992回に達した。リアルとオンラインのハイブリッド展開で著作物の接点を創出できたことは、本事業の重要な成果と評価できる。 第二に、定性的な効果として、アーティストが自身の著作物を通じて観客に直接語りかける機会が実現し、著作物の尊厳や文化的価値に対する理解を促す文化的・教育的な意義が果たされた点が大きいと考えられる。生演奏を通じて著作物に触れた観客は、作品の背景や創作意図に共感し、単なる消費対象ではなく「創作物としての音楽」の重みを感じ取る体験を得ることができた。これは、著作物に対するリスペクトや創作者への敬意を醸成するうえで極めて有意義であり、今後の文化的土壌の形成にもつながるものである。 第三に、こうした成果が将来的に中長期的な波及効果を生む可能性が高いという事が考えられる。特に若年層の来場者や視聴者に対し、著作物が誰かの思いによって創られていることを体感させることができたことは、将来的な著作権意識の醸成に寄与するものであり、教育的側面から見ても重要である。また、音楽ジャンルの多様性が可視化されたことにより、幅広い著作物への理解や関心を深め、文化としての音楽の厚みを社会に伝える効果も確認された。 以上のように、本事業は、来場者・視聴者数などの定量的指標だけでなく、著作物に対する理解や共感の深化、多様な音楽文化の可視化、そしてアーティストと受け手の心のつながりの創出など、多面的な成果をもたらした。これらはいずれも、当初の目的である「著作物の価値を伝え、流通を促進する」という趣旨に合致しており、事業の構成や内容が十分に意図した効果を上げたことを裏付けるものである。	C	○		○	○	
2024-3047	コンテンツメーカーと協働した著作権の普及啓発事業	一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会	2,289,000	1,693,860	中学生高校生を対象とした体験型ワークショップを開催する。ゲーム会社の制作スタジオを見学し、ゲームソフトの制作がどのように行われているか体験する機会を提供する。ゲームソフト等のコンテンツが著作権で守られていることを伝え、あわせて著作権に関する知識を提供する。中高生にとって関心の高いゲームソフトを通して、創作への敬意や意欲、ならびに著作権に対する理解を促進することを目的とする。	参加者が、制作体験を行い講義を聞く際の態度や発せられた質問内容に加えて、全員に筆記させて発表してもらった感想などを総合的に鑑みると、(ゲームの）創作に対するより深い理解と敬意が醸成され、著作権の必要性と基本的な考え方、そしてゲームを適切に遊ぶための知識を得ることができたと評価できたため。	B	○	○	○	○	
2024-3050	展覧会「文豪×文庫　夏目漱石・林芙美子・萩原朔太郎　ー名作の装丁　新しい100冊ー」	一般社団法人日本図書設計家協会	2,510,000	740,815	明治～昭和期の文豪・詩人に焦点を当て、現代の装丁家・装画家がその作品（文庫本）に新たな装丁を施し、書籍の持つ普遍性と発展性の模索を通じて創作の振興と普及に努める。 ・夏目漱石『こころ』、林芙美子『放浪記』、萩原朔太郎『猫町』の初版本展示 ・上記書籍の文庫版への現代の装丁家・装画家による新たなカバーの制作と展示等	平日のみの開催にも関わらず、会期を通じ一日平均50～60人が来場、尻上がりの状況も見られました。また、美術系専門学校生が授業の一環として見学に来るという教育的行事にも繋がりました。新しい装丁を施した文庫本の販売も想定以上に好調で仕入れ分を完売、新しい読者層の広がりに貢献しました。 これらのことにより、文豪作品の既刊書籍に現代の装丁家・装画家が独自の装丁を施すことによって新たな価値を創造し、広範な人々にこれを提示、創作の振興および普及への貢献を図るという目的を達成することができました。	B	○	○	○	○	
2024-3051	写真家の録音記録「声のライブラリー」のデジタルアーカイブの構築と公開	公益社団法人日本写真家協会	3,000,000	2,652,286	1970年代から1990年代にかけて写真家の肉声と映像を記録した「声のライブラリー」の録音データシリーズを保管しているが、これは主に磁気媒体（録音テープ等）を使用して記録されたもので、近年の経年劣化が著しく、改めてデジタル化する作業が必要である。これらの記録が失われることは、日本の写真文化を後世に遺す上での大きな損失となるため、早急な対策が必要となっている	（1）録音記録「声のライブラリー」デジタル化。 アナログデータのデジタル化に関しては、30～50年が経過しているカセットテープやビデオテープ、8㎜フィルムなどが、大きな劣化や損傷も無く全てデータ再生ができたことは奇跡的なことと考えている。巷でも 国連教育科学文化機関（ユネスコ）が「2025年までにデジタル化しないと永遠に失われる可能性がある」と警告を発しているように、いわゆる「2025年問題」についての対策ができたことは、まさに今回が最後のチャンスだったのかも知れない。 （2）ダイジェスト版「声のライブラリー」の小冊子発行。 小冊子発行については多方面から多くの高評価をいただいている。特に教育関係者から追加の贈呈を求める声がでてきたことはうれしい誤算であった。 （3）Web制作と公開。 Youtubeで動画を公開するために令和の基準に合わせて内容を確認を行うことが、実は一番手間暇のかかることであった。昭和の時代では一般的でも現在では不適切となる言葉使いなどが多分にあり、作業に関わった委員達の目に見えない努力が評価される。そんな中で、2025年2月11日から4月6日まで長崎県美術館で写真展を開催する奈良原一高のご遺族から、動画を確認したうえで、このような動画が残っていたことに大変驚いている。写真展会場でぜひ放映したいとの申し出があり、これも一つのご縁である理由から公開前ではあるが特別に貸出を行うことにした。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3054	第６２回有島青少年文芸賞	株式会社北海道新聞社	890,000	761,949	北海道と関係の深い作家・有島武郎の業績をたたえ、１９６３年に創設。中学生・高校生とこれに準じる年齢の方を対象に小説・詩・ 評論・随想・シナリオ・戯曲・その他のオリジナル作品を募集。最優秀賞ほか最優秀賞１編、優秀賞３編、佳作約１０編を選出する。最優秀賞作品は北海道新聞デジタルに全文を掲載し、入賞全作品を収めた作品集も販売する。	学校単位での応募点数が増え、昨年より３０編も多い７６編の応募があった。今回も幅広いテーマの多彩な作品応募があり、本事業の裾野が広がった。表彰式後の懇親会では受賞者が選考委員から直接講評を聞き、同世代の他受賞者と交流することで多様な価値観に触れ、次作執筆への意欲を育むことになった。また、新聞紙面やウェブで選考結果や表彰式の様子を広く世間に発表することにより、著作物創作への理解を深めることができた。	B	○	○	○	○	
2024-3055	「APA著作権ハンドブックⅡ」	公益社団法人日本広告写真家協会	2,000,000	1,777,826	2019年にまとめた「著作権ハンドブック」を現代に必要な内容に更新して発行する。一般社団法人日本写真著作権協会、弊協会の顧問弁護士を務めていただいている野間自子弁護士の監修で、広告写真家が仕事をしていく際に必要となる著作権の知識をわかりやすくまとめている。弊協会が小中学生を対象に行っている『図工・美術授業にカメラ』の授業においてもこのハンドブックを参考に担当の先生や子供たちに著作権の存在、自分の権利を守り他人の権利も守るルールがある事をわかりやすく伝えていきたい。	多くの方に著作権ハンドブックを手に取ってもらい、興味のあるテーマが分かりやすくまとまっているとご好評をいただきました。著作権について社内で周知したいので著作権ハンドブックを追加で欲しいとの声もいただきました。これを機に、著作権に関する知識と意識を高めていただきたいと考えています。	B	○	○	○	○	
2024-3056	知的財産教育活動普及・定着事業	国立大学法人山口大学	1,800,000	1,155,673	本事業では、大学関係者、企業関係者、弁護士、弁理士、国家公務員等、誰でも参加可能なオンラインセミナーを継続的に開催するとともに、講師を招聘し、対面形式によるセミナー等も開催する。併せて、教育機関等への本学教員の派遣、有識者による知財教育高度化のための勉強会等、著作権及び著作隣接権をはじめとする知的財産教育の普及・定着活動を行う。	①本事業でセミナー等のイベントを全23回、2,600人を越える参加者を動員できた。（当初目標はセミナー10回以上、参加者3,000人である。これと比較すると、実施回数は2倍以上。しかし参加者数は目標を1割程度下回った） ②参加者の満足度について、アンケートにおける肯定的評価が約95％と非常に高かった。 ③受講だけに留まらず、セミナー等で得た教材や指導法を活かして所属先で活用しているとする回答があり、さらなる普及の様子が得られた。 ④子ども・保護者向けのワークショップや、学生向けの「知財かるた大会」など、非常に多様な形式で著作権の保護の重要性の伝達・創作の振興・普及を行うことができた。 以上、目標の2倍の回数を実施しつつ、参加者に高い満足度を与え、かつ著作権理解の裾野を広げる活動も実施できた。参加者数こそ目標を下回ったものの、これは参加者のニーズに即してテーマを細分化・高度化したことが要因と考えられる。そうした次年度への課題が見えたことも成果のひとつである。この反省を受け、R7年度は、これまで同様ニーズに即したテーマで開催しつつ、新たに「連続セミナー　いまさら聞けない法学入門（仮）」など、初学者向けの裾野の広いテーマも扱うことで、参加者数増もねらう。	B	○	○	○	○	
2024-3057	第69回こども県展（令和6年度千葉県児童生徒美術展覧会）	株式会社千葉日報社	4,200,000	3,985,266	絵画やデザインなどの表現は、人間の成長にとって欠くことのできないものであり、人間形成の基礎・基本となるものであるといわれる。 こども県展は、次代を担うこどもたちの豊かな心と、個性や創造性を育むことを目的として開催してきた。千葉県教育委員会をはじめ関係各団体の後援により、長い歴史と伝統がある。さらに内容の充実に努め、美術教育の振興発展に寄与することを目的としている。	今回応募いただいた作品点数は576校・53,131点と、出品料の値上げの影響から昨年度に引き続き出品数は減少傾向にあったが、生徒の創造力・発想力を感じる素晴らしい作品が数多く集まった。 前回から導入している電子決済システムでは、運用側の手間が省けることから人手不足の解消にも繋がった。出品者側には操作方法のマニュアルを作成して配布することで、スムーズな運営を心掛けて対応した。 一方で、出品者の利便性を向上するため一部システム再構築の必要があり、電子決済システムの保守料として経費が発生してしまった。 また、本事業の継続により県内美術教育の更なる発展や文化振興を推進していくため、美術教育に関する生徒の興味関心を高め出品数を増加させていくことは課題となっている。そこで、本年度から特別賞の副賞として、作品の縮小版と表彰状を入れた「ガラス楯」を作成し、表彰式で贈呈した。優秀な功績を称えるとともに、今後も生徒の意欲を養っていくための施策として採用した。	B	○	○	○	○	
2024-3059	第8回日本子どもの本研究会作品賞選考及び受賞者への贈呈式	一般社団法人日本子どもの本研究会	360,000	255,898	第8 回作品賞は、前年に国内で発行された児童書の中からジャンルやグレードに関わりなく優れた作品を選び、作者だけでなく制作に携わった方々を広く顕彰し、もって児童図書のより一層の発展と、子どもたちの読書がより豊かになることを願うものである。	助成を受けられたことで資金的な制約を減ずることができ、少しずつではあるが選考委員会の持ち方や贈呈式のあり方等を含めて改善していくことができた。これは非常に大きなことで、受賞者の方々にもたいへん喜んでいただけた。作品賞を紹介したフライヤーについても、もっと知り合いに配りたいからと受賞者からも要請があって増し刷りして送ることができた。贈呈式では、受賞者の皆さんが大変に心のこもったスピーチを用意してくださって、参加者一同至福の時を過ごすことができた。これらをしっかりと伝えていくことで、次年度はさらに充実した会にしていきたいと考える。	B	○	○	○	○	

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3060	Tokyo Docs 2024	特定非営利活動法人　Tokyo Docs	10,000,000	6,203,881	Tokyo Docsは日本のドキュメンタリー製作者が国際展開を目指す作品や番組企画を、参加する欧米やアジアの有力な放送局、動画配信会社、配給会社、製作会社のプロデューサーに直接ピッチング（企画提案）する場である。そのピッチング登壇に向けて、7月～10月まで海外ドキュメンタリストを講師として、人材育成トレーニングを実施する予定。	海外ゲストから企画のクオリティについて例年よりも高い評価が寄せられた。 ラウンドテーブルミーティングが例年の個別ミーティングより活発で、いくつかの企画には具体的な出資希望が示された。 トレーニングの講師とピッチのモデレーターを今年初めて務めたオウブ・イェンセンさんに高い評価が寄せられたことも寄与していると思われる。	B	○	○	○	○	
2024-3061	視覚障害者等の人々も読める電子書籍の出版に向けた、EPUBコンテンツのアクセシブル化に関する研究	社会福祉法人日本ライトハウス	15,193,137	13,104,216	アクセシビリティと著作権保護を両立させたインクルーシブな電子出版は、著作権者に、視覚障害者等、読書にニーズがある人々を含む広範な読者獲得の機会をもたらす。本事業では、出版社が発行するEPUB形式の電子書籍のアクセシブル化に必要なツール類の、改良、日本語翻訳、公式サイトでの公開を行い、EPUBアクセシブル化マニュアルを作成する。併せて、読書バリアフリーとインクルーシブ出版に関するシンポジウムも開催する。	本事業により、EPUB（電子書籍）のアクセシビリティチェッカー「エース」及び、約13万語のEPUBアクセシビリティに関するデータベース「アクセシブル出版ナレッジベース」の日本語対応化と、これらのツール類を活用した『EPUB書籍のアクセシブル化に関するマニュアル』を成果物として作成できたことは、「読書バリアフリー法」でも謳われている障害者の“借りる権利”と“読む権利”の保障において、大きな成果であったと考えている。 成果報告会として実施したシンポジウムでは、視覚障害者情報提供施設やボランティア団体、学校、当事者団体、公共図書館、出版社、一般企業など様々な立場の方々に参加をいただき、アクセシブルな出版を目指す上での現状と課題を共有するとともに、これからの目標を再確認することができた。参加者アンケートで寄せられた意見からも、一定の反響があったと捉えている。 一方で、出版社が発行したEPUB書籍を使った「エース」の検証では、協力いただく出版者を探すのに苦慮した。担当者レベルでは最終段階まで進んだものの、企業としての協力を得るところまでは至らないケースや、一企業として協力できる事業ではないと断られるケースが多かったことは、視覚障害者等への情報保障をボランティア依存で賄ってきた我が国の気質が露わになったように感じた。 しかしながら、出版者によるアクセシブルなEPUBの発行は、今後、視覚障害者等の読書権の保障において、継続して取り組まなければならない課題である。 今後も、「エース」及び「アクセシブル出版ナレッジベース」の検証と修正を続けながら、出版者との連携協調を模索していきたい。	B	○	○	○	○	
2024-3064	DX時代に対応した「新裁定制度」に係る課題に関する調査研究	公益社団法人著作権情報センター	2,760,000	2,334,676	令和5年著作権法改正により創設された未管理公表著作物の利用に関する裁定制度は、著作物等の利用には権利者の許諾を要するという原則を転換する側面を持つことから、利用者と権利者の双方に大きな影響を与える可能性があるものの、制度の詳細は必ずしも明らかになっていない。 本事業においては、同改正法の施行に先立ち、制度の内実を調査研究することにより、その円滑な導入や予測可能性を高めようとするものである。	本事業では、令和5年著作権法改正により創設された「新裁定制度」（未管理著作物裁定制度）について、法解釈の側面、運用実務の側面、現行67条との関係といった様々な角度から論点を抽出するとともに、各論点について詳細な検討を行い、それぞれ一定の解釈や考え方を示すことができた。本調査研究で取り上げた内容は、いずれも「新裁定制度」の実務において必要不可欠な項目であり、その成果は、制度の円滑な導入や安定的な運用の実現に資するものと考えられる。	B	○	○	○	○	
2024-3065	子どもの読書活動推進事業	公益財団法人文字・活字文化推進機構	9,210,020	5,788,362	本事業では、読みきかせなどを通じて子どもの読書活動推進に取り組んでいる大人を対象としたスキルアップセミナーを開催し、子どもと読書の接点で活躍する人々の育成や拡大を目指します。また、子どもたちやその保護者を対象に、本の楽しさを伝えるイベントを開催し、子どもたちの読書習慣の育成を目指します。これらのセミナーやイベントの告知、読書の魅力や読書活動の推進に役立つ情報発信、ネットワークづくりのためのウェブページも作成し、事業成果の幅広い普及・浸透を図ります。	大人向けセミナーは、全ての回で定員を上回るお申し込みがあり、特に、第3回の北九州会場については、申込開始日にキャンセル待ちとなるなど、想定を上回る反響があった。申込者についても、20代～70代まで、年齢や性別を問わず幅広いお申込があった。アンケートでも、地域における具体的な活動とその方法を知ることができた、というようなお声をいただき、今後の地域における読書推進活動の参考となる情報を提供することができたと考える。各イベントのアーカイブ動画をYouTube上で無料公開しているが、繰り返し学びなおすことができてありがたい、という声もあった。 親子向けイベントでは、プロの演奏と朗読を通じて、音楽と本の両方の入り口から創作物・著作物への関心を高めるきっかけとなるイベントを提供できた。東京会場では絵本作家すみもとななみさんの講演を行い、絵本の創作過程についてもお話しいただいた。アンケートでも、なかなか知ることができないお話をきけてよかった、という感想が多くあった。 また、本事業全体で、新聞やオンラインインタビュー記事など、読者の多い媒体に掲載いただき、著作物の利用促進にも資する事業となったと考えている。	C	○	○	○		

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3067	日本行政書士会連合会著作権相談員のデータベース構築及び著作権相談員による著作権教育の実践に特化したセミナー等の実施による著作権制度普及啓発事業	日本行政書士会連合会	1,816,000	1,743,200	一般公開している現行著作権相談員名簿の記載項目に、著作権に関する研修歴、著作権教育に関する指導助言歴等の情報を加えてデータベース構築し、著作権に関して市民が抱える課題に対応することのできる著作権相談員を選びやすくする。 加えて、学習指導要領に基づく著作物等の利用についての具体的な事例や著作物等の利用に関する際の「引用」等の考え方の普及啓発ためのセミナー等を企画実施し、もって著作権制度の利用促進に資する。	当初の計画どおり、 〇著作権相談員データベース構築が完了し、2025年3月3日に運用を開始したこと。 〇専門家会議を２回開催し、著作権教育実践セミナーで公開する著作権普及啓発実践モデルの具体的な骨格が固まり、次年度につなげる手はずができたため。	B	○	○	○	○	
2024-3069	第30回宮日音楽コンクール	株式会社宮崎日日新聞社	350,000	350,000	小学生から一般を対象とし、優れた演奏家を発掘･育成するとともに、音楽文化の振興に寄与することを目的としている。 ピアノ、声楽、弦楽器、管楽器、打楽器の５部門で、審査員には毎年、国内外で活躍する音楽家を招聘している。県外からも出場者が多く、入賞者の一部は国内外の著名な演奏家が行う育成プログラム「ミュージックアカデミーin一宮崎」に参加できる特典もある（2023、2024年度は中止）。	運賃・宿泊費の値上がりなどによる諸経費支出の増加、予選出場者数の減少などにより、事業収入で支出をまかなうことができませんでしたが、貴協会の助成金により運営への影響は最小限に抑えられ、多くの参加者が演奏を競い合うことができました。ありがとうございました。	B	○	○	○	○	
2024-3070	教育著作権エヴァンジェリスト育成事業	一般社団法人ICT CONNECT 21	5,074,000	5,074,000	本事業は、２年計画で、初等中等教育機関において、著作権に関する疑問や課題に対する第一次対応（スクリーニング）ができ、かつ、初等中等教育の教職員に対して著作権の普及啓発、及び、著作権教育に関する研修を主導的に実施できる「教育著作権エヴァンジェリスト」を、各都道府県、及び、各政令指定都市の教育委員会、私立学校協会に最低でも１名以上育成することを目的として実施する事業である。	＜評価すべき点＞ ■目標としていた20名に近い19名の教育著作権エヴァンジェリストを輩出できた ■受講者の中で知識・意欲ともに非常に高い4名をゴールド認定することができた ■本年度は惜しくも認定を逃した受講者から、次年度再チャレンジする声が届いている ＜今後の課題と感じる点＞ ■省庁などの協力・後援があれば、より多くの受講者に参加してもらえた可能性が高い （個人的な参加が大半で、スクーリングの旅費等が教委に負担してもらえない人が多い） ■オンラインでのスクーリング参加者が多く、コミュニティ形成までには至らなかった （対面参加必須にすると受講者減少も見込まれるため慎重に検討が必要）	B	○	○	○	○	
2024-3072	山形ドキュメンタリー道場７	ドキュメンタリー・ドリームセンター	3,018,000	2,860,534	日本とアジアの新進ドキュメンタリー映画作家たちが、製作中の自作をたずさえて雪深い山形県の湯治場に一カ月滞在する、人材育成プログラムの７回目。地域住民や講師と交流を交えつつ、切磋琢磨しながら作品づくりを見つめなおす創作を支援する。また、地元の古い映画を新たにデジタイズして国際映画祭で上映し、地域の記憶を継ぐ著作物の価値について考える機会を創出する。	１　参加者のアンケートから見る満足度が高かった プログラム終了後の参加者のアンケート調査では、ワークショップ内容についての評価は１０項目すべてにおいて79.5％が「とてもよかった」、20.4％が「よかった」と回答した。本プログラムを人に勧めるかの問いには100％が「はい」と回答した。 ２　活動発信を活発に行い、SNSの発信目標を達成した ◆　本事業に関して　目標閲覧数13,200回→　実績43, 377回 結果：facebook (22回)　35,750 views / 385 actions、instagram （7回）　861 reach / 124 actions、X (7回）6,766 reach / 79 actions ◆　参加者のSNS発信　目標70投稿 香港人監督２人　facebook&instagram 1,071 actions、 ベトナム人監督　facebook (23回）2,757 actions、instagram（15回）225 actions ３　地域の人たち、在山形の外国人コミュニティといった包摂的事業が盛況だった 初めて行ったイベントの参加人数（国際交流会６６人、ベトナム上映会３３人など）が期待以上だった。目標人数は山形市内のイベント50人→　実績102人	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3075	第33回国際高校生選抜書展（書の甲子園）	一般財団法人毎日書道会	7,000,000	6,661,834	1993年から毎年開催している国内外の高校生を対象にした公募書道展で、「書の甲子園」 の愛称で知られる。第32回展では国内外から約1万600点の作品応募があった。9月に作品を受け付け、 10月に審査、 翌年2月に表彰と展示を行う。団体賞の地区優勝校(10校) は春のセンバツ高校野球の入場プラカ ー ドを揮毫する。	国際高校生選抜書展は33回まで歴史が積み上がり、御協会の助成を得られたことで今回初めて審査に新機軸を導入できました。これにより、審査の透明性と公正性を高められ、書道に取り組む高校生が目指す「書の甲子園」への信頼性も高められたと思います。 一方で、中継を視聴した複数の高校教師から、こちらが当たり前だと思って行っていたことに対し「不公正ではないか」との指摘を受けました。具体的には、作品を提出する際、出品者には「臨書」「創作」の２部門を選択してもらいますが、その後実行委員会審査部が出品者に知らせないままそれぞれの作品を「大字」「小字」に分類し、審査に出していたことです。「大字」「小字」それぞれで作品を絞っていくことで、入賞作品が一方だけに（大字だけに、あるいは小字だけに）偏らないようにするためでしたが、審査を公開したことで何人かの指導者がこれに気づき、それ自体が不公正ではないのかと指摘をしたのです。さっそく２月に開催した第34回展実行委員会で議論し、こうした分類は取りやめることにしました。 これは一例ですが、「公正な審査」とは実に難しく、公正さを追求するあまり柔軟性を失ってしまう場合もあります。今回分かったのは、透明性を確保することで「公正とは何か」をみんなで考え、多角的な視点で議論する素地を作れるのではないかということでした。出品団体へのアンケートからも分かるように、御協会の助成を得て行った事業により、書道界にさざ波を起こす効果はありました。この貴重な経験を踏まえ、時代にあった、若い世代が魅力を感じる公募書道展の在り方を探っていきたいと思います。	B	○	○	○	○	
2024-3076	第９２回全国盲学校弁論大会全国大会	株式会社毎日新聞社	2,000,000	1,891,336	盲学校生徒を対象に１９２８年から続く弁論コンクールで、今年度は第９２回大会となる。視覚に障害のある学生に自らの考えを言葉にまとめ相手に伝わる喜びを体験してもらうとともに、その思いを社会に伝え障害者理解につなげるのが大会の狙い。大きな節目となる「第１００回大会」まで歴史を刻めるよう、学校現場の実情をふまえると共に、大会成果の伝え方などに工夫を重ねながら持続可能性を探っていく。	今年度の大会はコロナ禍を経て初めて「一般観覧者の来場可能」とし、当初から出場者や関係者以外の方々にも来てもらいたいと願っていましたが、想定以上に一般の視覚障害者が観覧者として足を運んでくださいました。会場が満杯となるほどの盛況の中で実施できたことで、出場者も観覧者も、障害当事者が主体的に関わり、その思いを共有する場として大会をこれからも継続していくことの意義を改めて確認することができたためです。 また、今回、大会を撮影した動画をSNSで配信したところ、弁士と同世代とみられる視聴者から「こんなつらいことがあるんだ」「もっとこうなればいいのに」など、弁論の中身にまで踏み込んでコメントも多数書き込まれました。特に若い世代の方々に、障害当事者というマイノリティーの存在、そして、その人たちの生の声を聞いてもらえたという、手応えを強く感じるためです。	B	○	○	○	○	
2024-3082	第１３回しまね小中学生新聞コンクール	株式会社山陰中央新報社	1,200,000	1,168,613	島根県内の小中学生対象。テーマを決めて自分だけの新聞を作るコンクール。自分の足で集めた情報を記事にして、専用用紙にイラストや写真などともにレイアウトする。審査員は学校の教員や新聞記者が務め、各学年の最優秀、優秀、優良、入賞、佳作、団体賞に当たる学校賞を決める。優秀な作品は新聞紙面、コンクールホームページ、協賛社イオンの松江、出雲、益田各店での作品展で公開する。	・例年と同等の参加学校数、応募点数、新聞教室の依頼があった。 ・回を重ねる中で、参加の常連になった学校、先生、児童生徒がいる。当コンクールを「卒業」した後も進学先で日本新聞協会主催の「いっしょに読もう！新聞コンクール」や弊社主催の「しまね高校生新聞記事感想文コンクール」に挑戦し、優秀な成績を収める生徒が複数いる。２０２５年度から新聞記者になる生徒もいる。 ・応募告知（６月）前から学校や保護者からコンクール開催について問い合わせがあったり、コンクールの時期以外にも応募用紙を学習で使いたいと追加希望する学校があるなど、コンクールや新聞作りの浸透を感じる。学校には余った用紙を提供している。 ・作品が子どもたちが取材した関係先で掲示されたり、地域や学校の文化祭や学習発表会で披露されたり、コンクールの枠を飛び出して発信されている。一般読者からも展示会の有無の問い合わせや特集紙面で作品を見た感想が寄せられるなど、児童生徒や学校にとどまらず、コンクールの存在が浸透しつつある。	B	○	○	○	○	
2024-3083	紙芝居アカデミー　2024夏期講座	株式会社童心社	300,000	208,874	本講座は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、図書館関係者などを主な対象として、日本独自の出版物である紙芝居の魅力を伝え、保育・教育の現場で活用を促すことを目的としている。これまでは東京で開催してきたが、要望に応え始めて大阪での実施となる。著者・研究者・編集者の講義と実演を通じて、絵本と紙芝居の違いなどを理解していただき、より現場で力を発揮することが可能となる。	はじめての大阪開催であり、評価が難しいが当初予定した定員を上回る申し込みがあったため。	B	○	○	○	○	

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3084	学生目線で制作する若年層向け著作権啓発MV	公立大学法人大分県立芸術文化短期大学	2,157,000	2,016,588	学生たちの感性と柔軟な発想により、若年層に響く著作権啓発MV（ミュージックビデオ）を考案し、全国の教育現場等で活用可能なクオリティで制作・公開することで、これからのデジタル社会を担う世代の著作権に対する理解の促進、倫理観の醸成を図る。 学生グループが若年層への啓発を目的として制作した「著作権のうた」のカバーMVを制作し、若年層をターゲットとしたデジタル展開を行う。	再生数については目標とした1万回を達成することができなかった。しかし、これまで学生たちを中心に多くの広報活動を行ったことで多くの若年層に対して啓発効果はあったものと考える。特に、広報物の配布や映像上映などを以下に示す通り、様々な場で積極的に実施してきた。加えて、学生たちは現在進行形で広報活動を続けているため、今後のコンテンツの広がりも期待できる。 また、事業終了後も担当教員および学生たちの強い意思によって広報を継続していくため、若年層へのさらなる啓発効果が期待できる。	B	○	○	○	○	
2024-3085	図書館等公衆送信補償金制度に係る補償金収受システム構築事業	一般社団法人図書館等公衆送信補償金管理協会	10,500,000	10,500,000	令和３年著作権法改正において新設された、特定図書館等が補償金負担のうえで図書館資料を公衆送信することを可能とする制度に関し、同補償金を受ける権利を行使する唯一の団体として指定されている当法人が、同補償金の収受を円滑かつ低コストで実施することができるシステムを構築する	補償金収受のためのシステム構築は完了し、国立国会図書館との間での運用が開始されている。運用開始時期がずれ込んだために請求書発行までの手続きを完了できなかった面はあるものの、25年の4,5月にはその部分の検収も終了し、当初予定していた通りの運用の形が実施できる予定である。	B	○	○	○	○	
2024-3086	DANCE CLUB CHAMPIONSHIP vol.12	エイベックス・アライアンス＆パートナーズ株式会社	10,000,000	10,000,000	高校ダンス部の全国大会。2013年の第１回大会から始まり、今年で12年目となる。 ダンス技術のみではなく、「漢字２文字のテーマをいかにダンスで表現するか?」という審査基準で、技術力・表現力・独創性を総合的に審査する	楽曲ルール（著作権/原盤権）対応のスタッフ体制を強化することで、参加校への手厚いサポートを実現、 ダンス部に対する楽曲権利の認知拡大及び楽曲権利処理を適切に行なった大会運営（ダンスの大会では数少ない）を実現した。 ※他大会と比べて厳しい楽曲ルールを設ける中でも、地方大会の拡充等により昨年同等のエントリー数を獲得。 決勝大会においても、「Final Stage の新設」「審査システムの導入」「世界的なチームによるゲストパフォーマンス（Rht.）」等を実現し、昨年よりも大きくグレードアップ。更に「ABEMA」「スポーツナビ」による生配信、スカイAによる生放送、9月1日に放送されたDCC特別番組などによって、高校生ダンス部が創り上げた著作物（ダンス作品）を会場にお越し頂いた方以外にも広く発信することが出来た。 ※生配信/生放送、特番放送を楽曲著作権を適切に処理した中で実現。 引き続き、本大会を通じて高校生ダンス部のクリエイティブの促進、及び創作物に対する著作権意識の醸成を行いたいと思う。	B	○	○	○	○	
2024-3087	第9回高校生ダンスバトル選手権	名古屋テレビネクスト株式会社	2,200,000	1,822,442	高校生・高校ダンス部員が出場できるダンスバトルの大会。ＤＪがランダムに流す楽曲に合わせて即興で踊りあい勝敗を競う、パリ五輪でも採用されたダンスの形式で行われる。 １対１と3 対３チーム戦の２種目があり、全国4 地区で予選。最後に全国大会を行う。数多くのプロダンサーや後に世界一になるダンサーを輩出するなど、名実ともに日本一の高校生ダンスバトラーを決める大会である。	前年度の第8回大会と比較して、予選への出場者が２７％増（305人→386人）になりました。この数字は、ダンス人口の増加から想定の範囲内ではありました。いっぽう、予選と決勝の来場者は２３１％増（225人→745人）と大幅に増えました。ダンスが「やって楽しいもの」から「見ても楽しいもの」になってきている現れだと思います。この部分は予想を超える成果であります。また、北は北海道から南は沖縄まで、29の都道府県から出場者が集まったことも、全国規模での大会認知が進んでいることを示していると思います。 しかしながら、協賛企業は大会を黒字にするほどは集まっておりません。この点をクリアできれば、大会の継続もより可能になるので、その時は、予想を超える成果があったと胸を張って言いたいと思います。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3088	民放連「放送番組の違法配信撲滅キャンペーン」	一般社団法人日本民間放送連盟	29,150,000	29,150,000	インターネット上における放送番組の違法配信を抑止するためのキャンペーン。アニメーションの啓発スポット「違法だよ！あげるくん」を制作し、同スポットの放送および配信を通じて、インターネットユーザーに向けて、軽い気持ちで無断アップロードをすることがないよう注意喚起を行う。あわせて無断アップロードされた動画を見ている人たちにも、違法性の認識を高めてもらうことを狙いとしている。	１．定量調査の以下の結果から、本キャンペーンが概ね高く評価されたと考える ①数か月（2025年１月～）の新CM展開にもかかわらず、高い新CM接触率であったため。 ②視聴者・ネットユーザーからの期待値が高かったため。 ③違法性の認知に本キャンペーンが貢献していたが分かったため。 ④新CM呈示後の回答内容が良かったため ⑤重点的なターゲットに対して一定の成果があったため。 ２．「指導ムービー」を３話制作できたため CMの訴求力により本キャンペーンの認知は高まったといえるが、前述のとおり短いCMでは著作権侵害について詳しく説明することができないという課題があった。「指導ムービー」の制作により、本キャンペーンが抱えていた課題の一つをクリアできたと考えている。	B	○	○	○	○	
2024-3089	第３０回日本プロ音楽録音賞	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	1,632,000	1,582,318	本事業は音楽文化と産業の発展の一翼を担う録音エンジニアが制作し応募した音楽録音作品について、エンジニアが有する音楽に対する感性、技術力等を評価することにより、授賞対象優秀作品および最優秀作品並びにベストパフォーマー賞を選定し、これに携わり制作を担ったエンジニアおよびベストパフォーマーのアーティストを顕彰することでエンジニアの技術の向上と次世代エンジニアの発掘を図ることを目的とし、表彰を行うものである。	2023年度に開催した前回(第29回)同様に日本プロ音楽録音賞ではレコーディング専門誌やオーディオ誌に、受賞作品に関わったエンジニアやアーティストに関する記事が掲載され、音楽録音制作に対するエンジニアやパフォーマーの拘り等が取り上げられることで、レコーディングという仕事の創造性や存在意義への理解が高められたことに加えて、今回制作した授賞式ダイジェスト動画の再生回数が１ヵ月程で4,000を超える反響があり、その動画書込みコメントにもエンジニアの作品に対する貢献度に認識や評価をする内容が見られ、音楽作品に関わったスタッフクレジットを目にすることが少ないサブスクによる音楽試聴を行っている世代に対しても、レコーディングエンジニアの存在を知ってもらうことが出来た。	B	○	○	○	○	
2024-3091	第８回東奥文学賞	株式会社東奥日報社	950,000	774,056	同文学賞は、青森県の日刊「東奥日報」創刊120周年を記念し2008（平成20）年に創設。隔年で開催し今回で８回目となる。地域読者の創作意欲を高め、小説執筆の機運醸成・振興・普及を目的とし、新たな才能の発掘・育成のため青森県在住者や県出身者から小説作品を募集し外部委員による選考を行っている。大賞受賞作品は書籍として出版。受賞者に著作物を生み出すことへの感動を味わう機会を提供する。	今回初めて贈呈式会場を東奥日報社本社ホールから、中心市街地に立地する当社東奥日報新町ビルで開催した。祝賀会も併催し、従来は選考委員や受賞者ら来賓１０数人だった招待者が、今回は文芸出版関係者ら約30人を招いたこともあり、経費が膨らむこととなった。自己負担はかさんだが、助成金を受けたことで一定程度の負担にとどめることができた。また上記で示したように、経費はかさんだが贈呈式出席者が増加したことで、著作権・著作隣接権を認知する機会の拡大につながったものと考える。さらに今春を目途に、大賞作品の書籍を出版し、同書籍に助成金を活用したことの文言やロゴマークを付記し、権利関係の周知を図っていく所存であり、予想した効果はあったと考える。	C	○		○	○	
2024-3095	「JPCA写真著作権ハンドブック」	一般社団法人日本写真著作権協会	2,582,800	2,582,000	当会の著作権セミナー受講者、広報誌読者、制作に協力したNHK教育番組を視聴した方々から、当会に対して写真著作権のハンドブックを求める声が高まり、写真作品を創作する、鑑賞する側、そして写真作品を利用する側の双方に対して、著作権と著作者人格権の大切さを伝えるため、写真家、コンテスト主催者、法律家などの現場のトピックを中心に構成し、親しみやすい内容のハンドブックの制作を行う。	本事業である、「JPCA写真著作権ハンドブック」制作にあたり、「写真著作権とは何か」の解説のために調べはじめた著作権法改正の歴史は、当会と会員団体の歴史、つまりは写真家たちの闘いの歴史を知ることとなり、それは、予想を超えて、事業（ハンドブック）を充実させることになりました。そのことにより、写真愛好家・写真家（アウトサイダー）たちへ向けて「写真著作権」をより深く理解してもらうための素晴らしい材料ができました。 また、事業の成果を充実させるために並行して開催した写真著作権セミナーは、前年度よりも開催数が増加しただけではなく、その反響も大きく、全国からセミナー開催を求める声が挙がっています。そこでは、写真愛好家・写真家たちが不安に感じていることの詳細が分かってきました。 本事業を行ったことによって、これまで知られていなかった写真における事実が明らかになりました。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3096	第12回高校生直木賞	高校生直木賞実行委員会	1,544,000	1,147,588	直近1年間の直木三十五賞の候補作品を全国の高校生たちで読み、討議を通じて評価し、さらに各校の代表者が一堂に会して議論を重ねて「高校生たちの今年の1作」を選出する。そのプロセスと並行して、各地域の書店で書籍を購入する機会を設けたり、高校生の「読解力」「語る力」「聞く力」を涵養するため実作者、編集者を講師に招いて読書会やトークイベントを複数回開催したりする。	当初の計画では50校の参加を目標としており、わずかに届かなかったが、過去最高となる49校の参加をえて、議論は大いにもりあがっている。高校生が地域書店で本を購入し、書店員と交流する企画も進行中で、充実した成果が得られそうだが、こちらは令和7年度の事業報告であらためて評価したい	B	○	○	○	○	
2024-3101	国内外の伝統音楽・芸能を記録したビデオ作品のデジタルファイル化および公開用データベース構築	公益財団法人日本伝統文化振興財団	3,260,000	2,433,078	1980～90年代に国内外の音楽・芸能を広く記録・収集して制作され、長く教育現場で使用されるとともに各種賞を受賞するなど社会的に評価を受けたビデオ作品を次世代に継承するため、旧式のメディアフォーマットで記録されたマスターテープをデジタルファイル化する。本事業が完成した後にインターネット等を利用して公開し、データの長期保存（データマイグレーション）を可能にすることを視野に入れて実施する。	デジタルファイル化対象作品（計200本）のマスターテープの倉庫から委託業者への搬入から、デジタル化作業、デジタルデータの納品、そして倉庫への返送まですべての工程をトラブルなく予定期間内に終えることができました。本事業により貴重な映像記録を将来に残すための大きな一歩を踏み出すことができ大変感謝しています。	B	○	○	○	○	
2024-3102	ブックサンタ2024	特定非営利活動法人チャリティーサンタ	0	0	生活困窮などにより思い出格差（※1）を抱える子どもに愛された記憶を残すため、新品の本ともに「特別な体験」を届けている。また、寄付者にとっても、贈る本を自ら選べるという「楽しい寄付体験」の構築を目指している。2017年から実施し、昨年度は1,683書店と連携、3ヶ月間で合計128,898冊（総額2億円）の寄付が集まった。寄付本は全国約300の子ども支援団体を通じて対象の子どもたちに届け、本を通じた子どもの支援と著作物の振興を行っている。 （※1）思い出格差：その後何度も思い出せる記憶が得られる経験の差	2024年、NPO法人チャリティーサンタは驚異的な実績を達成しました。寄付に参加した方々の数は約8万6千人を記録し、目標を大幅に上回る成果を収めました。さらに、寄付によって購入された本の冊数は130,843冊に達し、全国の子どもたちに希望と知識を届けるという使命を実現する重要な一歩となりました。 このような成果は、関係者一人ひとりの熱意と支援者の皆様からの深いご協力があってこそ達成されたものです。しかし、これに満足することなく、チャリティーサンタは今後さらに多くの寄付者を巻き込み、より効果的な支援活動を行うことを目指してまいります。具体的には、広報活動の強化や地域コミュニティとの連携を進めることで、さらに多くの方々に寄付活動の重要性を訴えかけていきます。 チャリティーサンタは、「すべての子どもたちに愛された記憶を残す」というミッションを胸に、次なる挑戦へと歩みを進めていきます。	C	○	○	○		
2024-3103	「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」運営事業	著作物の教育利用に関する関係者フォーラム	5,869,000	4,232,358	授業目的公衆送信補償金（以下、「補償金」という。）制度に関して検討が必要な事項について、情報交換や意見交換を通じて、それらに関する共通認識を形成し、著作権（著作隣接権を含む。以下同様）制度への理解を促進し、著作権の保護を図ることで、もって教育現場におけるICT活用教育の推進及び著作物等（著作権及び著作隣接権の対象となるものの総称をいう。）の利用促進に資することを目的とする。	組織の規則が整備されるとともに、規則に基づく会議が適宜開催され、新たな事務局による組織運営が軌道に乗りつつあることから、予想どおりの成果があったと評価した。	B	○	○	○	○	
2024-3104	著作権普及啓発事業	一般社団法人法経書出版協会	2,800,000	2,800,000	ユーザが著作物を利活用するに当たり法の趣旨に則り適切な利用形態になるよう、現行著作権法で理解が難しい点を分かりやすく解説し、特に若者のコミュニケーションツールに合う形で動画とランディングページのテキストで提供する。	一般層に対する効果検証は、今後の再生回数で検証するが、5出版団体から、今後のキャンペーン継続に対する協賛の申し出があった。自然科学書協会　日本医書出版協会　大学出版部協会　大学英語教科書協会　ドイツ語教科書協会　以上5団体である。	B	○	○	○	○	

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3106	第12回ATP上方番組大賞	一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟	1,000,000	1,000,000	関西地域のコンテンツ発展と人材育成を目的に、2013年に創設された。関西で制作・放送される優れた番組やコーナー、または若手クリエイターに対して表彰を行う。本事業により、製作者や著作者のモチベーションが高まり、関西から全国が注目する映像コンテンツが生み出されることを目指す。また、著作物の創作の振興及び普及、著作権保有意識の向上にも寄与する。	今回の上方番組大賞において、予想を超える成果を達成できた理由は複数ありますが、特に大きかったのは、来場者数が大幅に増えたことです。昨年は131名だったのに対し、今回は当日は立ち見が出るほどの方々に来場いただき、171名と130%の増加となりました。 この増加の背景には、放送局との関係が深まったことや、会場を持ち回りで各放送局の施設を使うスタイルが定着してきたことが挙げられます。その結果、各局とのつながりが強まり、イベント自体の認知度も上がってきたと感じています。また、関西という地域に根ざしたイベントであるという価値も、放送局や製作会社にしっかり伝わってきており、それも来場者増に繋がったのではないかと考えます。 つぎに、投票校からの学生の参加が予想以上に多かったことも大きな成果でした。新しい大学と連携を深められたことが功を奏しました。学生の来場も増え、受賞式では受賞者の方々に、番組製作のやりがいや大変さ、達成感などを語ってもらったことで、学生たちが業界に対してより深く理解を持ってくれたと思います。こうした取り組みが、将来的に番組製作の現場で活躍する人材の育成にもつながっていくと確信しています。 さらに、短編・コーナー部門への応募が過去最多となった事も、予想以上の成果のひとつです。この部門は関西の番組製作の実情を踏まえて2年前に新設されたもので、徐々に認知度が高まり、多様な作品が集まるようになってきました。今回から、この部門からも最高賞を選ぶ新たな運営方針を取り入れたことで、応募者のモチベーションが高まり、優れた作品が集まったように思います。こうした取り組みを通して、上方番組大賞の価値も一段と高まったと感じています。 また、注目度や関心も高まり、放送局や製作会社、そして学生など、さまざまな立場の方が上方番組大賞に関心を寄せてくれるようになりました。その結果、地域メディアや関西の映像コンテンツ業界全体にも良い刺激を与えることができたのではないかと思います。 毎回、より良くしていくためにブラッシュアップをしてきた結果、今回の上方番組大賞は当初の想定を上回る成果を上げることができました。今後もさらに発展していく可能性を強く感じているところです。	B	○	○	○	○	
2024-3107	第54回京都新聞「お話を絵にする」コンクール	株式会社京都新聞ホールディングス	1,600,000	1,438,555	京都・滋賀の幼稚・保育・こども園児、小学生を対象に「お話（書籍）」の読後感を「絵にする」コンク ール。自由な発想と柔軟な感性を育み、豊かに表現する力をつけてもらうことが目的。昨年度は770校・園から128,665点の応募があり、京都市内の小学校では授業に組み込まれるなど地域の教育現場に浸透した取り組みとなっている。「著作権」について親和性があり、学べる機会と言える。入賞作品展会場やWEBでの著作権啓発の取組も行う。	小学生を対象にした著作権について学ぶワークショップを、今年度の新規の取組として実施しました。 定員を20組で想定していたところ、申込が3組4名、実際の参加者は2組3名と参加者数としては予想を下回る結果となりました。告知の段階で「著作権」を前面に打ち出したことから難しそう、とっつきにくそうと思われてしまったこと、ワークショップの具体的な内容についてイメージしづらかったことが申込みの少なかった要因だと考えられます。 参加者の点では期待を下回る結果となってしまいましたが、今回実際に取り組んでみたことで、参加した児童の反応やアンケートの回答をもとに、 ・マンガ、アニメ、絵本といった日常的に触れているコンテンツがどのように作られているのか ・クリエイターはどのような仕事をしているのか といった内容に非常に興味関心が高く、また講師と直接話ができるなど双方向性のコミュニケーションができることで、より満足度が高まることが分かりました。 コンクールの性質と合わせて考えると、たとえば選定図書の作者（作家・イラストレーターなど）を講師として、どのように仕事に取り組んでいるのか、自身の子ども時代はどのように過ごしていたかなどを直接聞くことが出来る児童との交流会のようなイベントを実施して、そのイベントの中で「著作権」「著作物」の解説動画を紹介すればよいのではないかなど、今回の内容を発展させ、切り口をアレンジすることでより児童にとって楽しく著作権について学ぶことができ、コンクールの価値を高めることのできる今後の事業展開の足掛かりを得ることが出来ました。参加者数の点では振るわなかったですが、今後の糧となる経験を得られたとは考えています。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3108	「児童出版美術と著作権」啓発のための動画製作とネット配信	一般社団法人日本児童出版美術家連盟	2,416,850	2,416,850	「児童書の著作権の歩み」動画制作 1964 年日本児童出版美術家連盟の設立以来、画家の著作権擁護のための活動を行な ってきた。その結果、画家の著作権について、社会での理解が深まり認められるよう になったが、まだ十分とは言えない。AIが普及する今こそ、著作権擁護の必要性を社会に広く理解を求め、日本で著作権がどのようなプロセスによって認められてきたのか、歴史を動画としてまとめ、一般公開し、著作権が護られるべき決まりであることを広く啓蒙する。 「児童出版美術家のための著作権の基礎知識」動画制作 印刷美術を職能とする画家は、ほとんどが企業から仕事を受注する個人事業主であるが、自分たちが持っている著作権についての知識が不足しているために、不平等な契約を締結してしまうことがある。 これを未然に防ぐ目的で、著作権とは何か、画家に はどんな権利が認められているのかを、分かりやすく解説する動画を制作し、企業と 権利者との共通理解が進むことを目論む。	公開して７日で120アクセスを超えたのは、完成と同時に告知チラシを配布したことによるものと思われるが、150社余りの出版社や関連団体に動画の存在を知られることにより、今後、拡散されることを期待したい。丸田憲和弁護士のご協力のもとに、丁寧に作り込んだ信頼性の高い内容となっており、権利者、利用者にとって親しみやすい著作権理解の入り口として、美術学生の学びにも長期的に広く利用されることが予想される。	B	○	○	○	○	
2024-3109	「科学技術映像祭」の公募大幅改定による同映像著作物の創作の振興及び普及	公益財団法人日本科学技術振興財団	4,161,554	4,137,900	「科学技術映像祭」は、65回を数える歴史を持ち、科学技術に関する優れた映像著作物に内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞等を授与する、日本で最も権威がある科学技術に関する映像祭である。近年の情報・通信技術の大きな変化に対応すべく、若い世代を対象とする部門を新設する等、公募の大幅改定を行う予定である。このため特に若い世代から多数の応募を得るべく、創作の魅力や、著作権等制作にあたってのルールについて広く発信する。	第６６回科学技術映像祭の作品の受付は、令和７年４月１日から５月１５日までで受付中です。このため本報告書を提出する段階では、応募作品数、とくに今回新設した学生部門にどれだけの応募があるかの数字が出ておりません。このためＢ評価としております。助成をいただき作成しましたＰＲ動画については４月３日にYoutubeにアップしたところ、すでに多くの視聴回数をカウントしております。 また、第６６回映像祭の周知を行うにあたり、多くの映像教育関係の大学や関係者とのつながりができたことは、６６回のみならず今後の科学技術映像祭の発展のために貴重な財産になるものと考えます。今回助成をいただいたことで、準備のための活動を大きく広げることができました。ＳＡＲＴＲＡＳ様に厚く御礼を申しげます。	B	○	○	○	○	
2024-3110	第１６回座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル	座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル実行委員会	2,640,000	2,640,000	映画やテレビなどの枠に囚われることなくドキュメンタリーを上映し、その魅力を広く一般に認知させることが目的である。ドキュメンタリー作品を通じて、現在の社会について考えることができる。またコンペティション部門を開催することで、作り手たちの成長をサポー トする目的も持つ。監督やカメラマンなど作り手たちが運営スタッフを担っていることも大きな特徴で、作り手のドキュメンタリーの魅力を伝えたいという思いの詰まった映画祭である。	新聞やネットメディアの反応は前回の開催よりも、反応が良かったと感じている。戦後80年の節目に、それをテーマに作品を選定し上映できたことが、反応が良かった一因だろうと思う。ドキュメンタリーは作られたその時代時代を記録していくものであるから、ドキュメンタリーを通じて、現在や過去を考えていくという取り組みは注目度も高く、今度もますます重要なものになっていくだろう。アンケートの評価も好評で、今後も継続してこのドキュメンタリーフェスティバルを続けていければと思っている。また、コンペティション部門の入賞作品への取材もあり、この映画祭を通じて、新くく作られた作品や新たな作家へ注目度が高まっていくことは評価できる。しかし、客数としては少し物足りなさ感じている。固定のファンなどもいて、ある程度までは客数は到達するのだけれど、さらにドキュメンタリーを普段見ないような観客などにも、間口を広げていけるような取り組みには至らなかったように感じている。シンポジウムなども開催し、客数を増やす取り組みにも挑戦したが、その点については、試行錯誤がまだ必要だ。広報的な活動を今後どのように取り組んでいくのかは今後も課題だと感じている。	C	○		○	○	
2024-3111	第82回全国舞踊コンクール	株式会社中日新聞社東京本社	2,700,000	2,700,000	1939年に始まり、バレエ、現代舞踊、邦舞、児童舞踊、群舞、創作舞踊の全6部門年齢別13部に全国から約800組、1200人が参加する国内最高レベルで、最も歴史があるダンスコンペティション。著名な舞踊家やコレオグラファーを数多く輩出しており、「舞踊の著作物」の表現者・創作者の育成、舞踊芸術の発展に貢献している。上位入賞者の演技ダイジェストやインタビューを公式ホームページ、動画配信サイトなどで紹介し、上位入賞者によるアンコール公演も実施する。	前回比で大幅なライブ配信へのアクセス増があり、本コンクールの取り組みが定着してきたことがうかがえ、アクセス数の増加量は想定以上の数字となった。今回はInstagramを活用した積極的な広報により、ライブ配信への認知度がより高まったように感じる。会場でも、ライブ配信の映像を繰り返し見ながら、決選に向けてさらに技術・表現を高めるための確認作業をしている出場者・指導者の姿が見られ、出場者にとっても当日の演技の重要な記録資料になっていた。また、インタビュー映像に加え、入賞者の演技の様子も今後アーカイブ化を進めており、本コンクールで入賞したダンサーの記録資料としての重要性を高めていきたいと考えている。ライブ配信やインタビュー映像といった動画配信には、ダンサーや指導者にとって需要があることを再認識するとともに、昨年に引き続き将来の舞踊界を担う踊り手を広く紹介することができた。	B	○	○	○	○	

2024年度共通目的事業　実施事業一覧

2025年6月20日
SARTRAS事務局

＜事業評価＞
評価項目(各2点)の合計点数が　10点：A 、　8点：B 、8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	実施者名	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業概要	事業報告	事業評価	評価項目				
								報告様式	証憑書類	助成表記	達成状況	特記事項
2024-3115	レコード創作の芸術性と魅力を発信するトークショーイベントの開催	株式会社MAE	2,270,000	2,270,000	クラシック音楽におけるレコード創作活動において、一般的にはその中心と目されるアーティストだけでなく、サウンドエンジニアや録音技術にも焦点を当て、レコード創作過程の全体像とその魅力を発信していくトークショー形式のイベントを開催する。一般的な音楽ファンが知る機会が少ないレコード創作過程における、アーティストやエンジニアの音作りへのこだわりや情熱に焦点を当て、その魅力を広く発信する。	企画で狙いを定めた通り、ご参加くださったお客様がレコード創作に関して理解を深め、より一層興味をお持ちいただくことができたことをアンケート結果から読み取ることができた。 著作物・創作物の作り手（アーティストと技術者）の生の声を届けることで、お客様がレコード創作について親近感と興味を深め、今後レコードを手に取る機会が増えるのではないかと期待することが出来た。 アンケートのみならず会場でのお客様の反応も非常に良く、レクチャーの途中で度々大きな拍手が沸き、感嘆の声を聴くことが出来たことからも強く手ごたえを感じることが出来た。	B	○	○	○	○	
2024-3124	日本コンテンツの海外展開最大の障害「海外の海賊版」実態に関する調査	一般社団法人ABJ	19,000,000	19,000,000	日本コンテンツの海外展開が急伸する中、海外向けの海賊版サイト対策は急務である。しかし海外では正規の翻訳版が潤沢に流通していないなど日本の読者と置かれている状況が大きく違う。そこで正確に海外のマンガファンに日本マンガとの接し方、海賊版利用の実態そして正規版の課題等を聴取・データ化し、海外に向けての「STOP! 海賊版キャンペーン」の施策立案や正規版展開促進の重要な資料とすることを目的とする。	報告書2通でも強く感じたが、実際にインタビューに立ち会い海賊版を読んでいる読者の実像に接することは、海賊版対策の担当者として想像以上の経験だった。正規版流通の担当者も同様に感じている。海賊版対策にしろ、正規版流通にしろ対象者の「顔」が見えることが非常に有益。加えてそれを裏付ける数字も把握し、限られた予算の中で、効率よく「海賊版対策」「正規版流通促進」を実施するために、非常に参考になる基礎データとなった。 さらに、メディアでの展開はこれからだが、国にをあげて「コンテンツの輸出※」を盛り上げようとしている昨今、その大きな阻害要因「海賊版」の被害状況理解と対策の重要性を知らしめることとなるはずだ。 ※経済産業省策定の官民戦略／ゲーム、漫画、アニメといったコンテンツの輸出額を2033年までに、現在の自動車と同水準の20兆円に引き上げる	B	○	○	○	○	
2024-3126	「日本語に通じない児童生徒」へのデイジー教科書の利用促進プロジェクト	特定非営利活動法人支援技術開発機構	7,133,041	6,316,241	教科書バリアフリー法が2024年6月に一部改正され、日本語に通じない児童生徒にもデイジー教科書を提供できるようになる。言語の壁のために学習から取り残されていた児童生徒がデイジー教科書を利用して学校の授業に参加しやすくなり日本語の読解力が向上すれば、日本語の著作物の普及にもつながるため、有識者による会議と、オンラインワークショップを中心とした普及事業を行う。年度末にその成果をとりまとめた事業報告会を実施する。	デイジー教科書提供実務の中核を担う日本障害者リハビリテーション協会と文部科学省、そして、デイジー教科書を教育委員会として組織的に提供する活動の先駆者である大阪市教育委員会、そしてそれぞれの講師の方々の破格のご協力をいただくと共に、多忙を極める多くの現場の教員および支援者の方が一堂に会した結果、講演内容をリアルタイムで検証（多くの参加者が有益な講演だったことを感動も含めて記述した感想文を提出）できた。従って、当初の企画と比較して、ビデオ制作の前の段階での準備に要する手間は数倍になったが、成果物として提供するビデオ資料の内容については、オンラインのプレゼンテーションの録画とは比較にならない説得力を持つことができた。また、この事業成果としてYouTubeで提供しているビデオ資料は、今後全国の教育委員会が現場の教員の研修教材として活用可能性が高く、また、自動字幕翻訳を用いて日本語の理解が難しい家族の方が多言語視聴することもできる。これは、当初考えていた、オンラインで実施するデイジー教科書の紹介を多言語で実施してそのビデオ記録を公開すること比較すると、けた違いに大きな効果が期待できる。このように、本事業は、実施の段階で、当初の計画で予想した成果を大きく超える成果をあげつつある。	B	○	○	○	○	
合　　計			563,184,627	474,054,212								

評価項目（各2点）
報告様式：適切な内容の個別事業報告書が提出されている
証憑書類：申請通りの使途に利用されていることを裏付ける証憑書類が提出されている
表　　記：共通目的事業の個別事業(自主・委託・助成)であることが適切に表示されている
達成状況：申請通りの内容で事業が実施されている
特記事項：上記1～4項目に加えて評価点があった場合に記載

事業評価結果（各事業評価を集計）	
評価項目の合計点数が10点：A	3
評価項目の合計点数が 8点：B	71
評価項目の合計点数が 8点未満：C	14
合　　計	88